

奥出雲町人口ビジョン

平成 27 年 6 月 1 日版

目次

1. 人口動向分析.....	1
1) 人口動向分析.....	1
(1) 人口の現状.....	1
(2) 総人口推移と将来推計.....	2
(3) 年齢3区分別人口の推移.....	3
(4) 地区別年齢3区分人口の推移.....	5
(5) 出生・死亡・転入・転出の推移.....	8
2) 自然動態の分析.....	9
(1) 自然動態の推移.....	9
(2) 母親世代人口の推移.....	10
(3) 合計特殊出生率の推移.....	11
(4) 男女別・年齢階級別未婚率の推移.....	12
(5) 子どもの人数別夫婦のいる一般世帯数.....	16
3) 社会動態の分析.....	18
(1) 社会動態の推移.....	18
(2) 県内市町への人口移動の最近の状況.....	19
(3) 2014年度(平成26年度)の主な人口移動状況.....	20
(3) 2014年度(平成26年度)転入・転出理由.....	21
4) 年齢階級別の人口移動分析.....	22
(1) 性別・年齢階級別の人口移動.....	22
(2) 性別・年齢階級別の人口移動状況の長期的動向.....	25
5) 雇用や就労等に関する分析.....	27
(1) 男女別産業人口の状況.....	27
(2) 年齢階級別産業人口の状況.....	28
6) 人口動向のポイント.....	29
2. 将来人口の推計と分析.....	30
1) 国立社会保障・人口問題研究所による人口の推計と分析.....	30
(1) 国立社会保障・人口問題研究所の人口推計の概要.....	30
(2) 全町の人口推計.....	30
2) 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析(未).....	35
3) 仮定値による将来人口の推計と分析.....	36
(1) 仮定値による人口推計の概要.....	36
(2) 全町および地区別の人口推計.....	38
3. 人口の将来展望.....	39
1) 目指すべき将来の方向.....	39
2) 人口の将来展望.....	39

1. 人口動向分析

1) 人口動向分析

(1) 人口の現状

国勢調査によると、2010年（平成22年）の奥出雲町の総人口は14,456人である。また、2010年（平成22年）の人口ピラミッドをみると、大学進学などによる町外転出の影響から20～24歳人口が少なくなっている。また、結婚適齢人口は特に女性で少なくなっており、今後ますます出生数の減少が見込まれ、人口ピラミッドは逆三角形に近づいていくことが予想される。

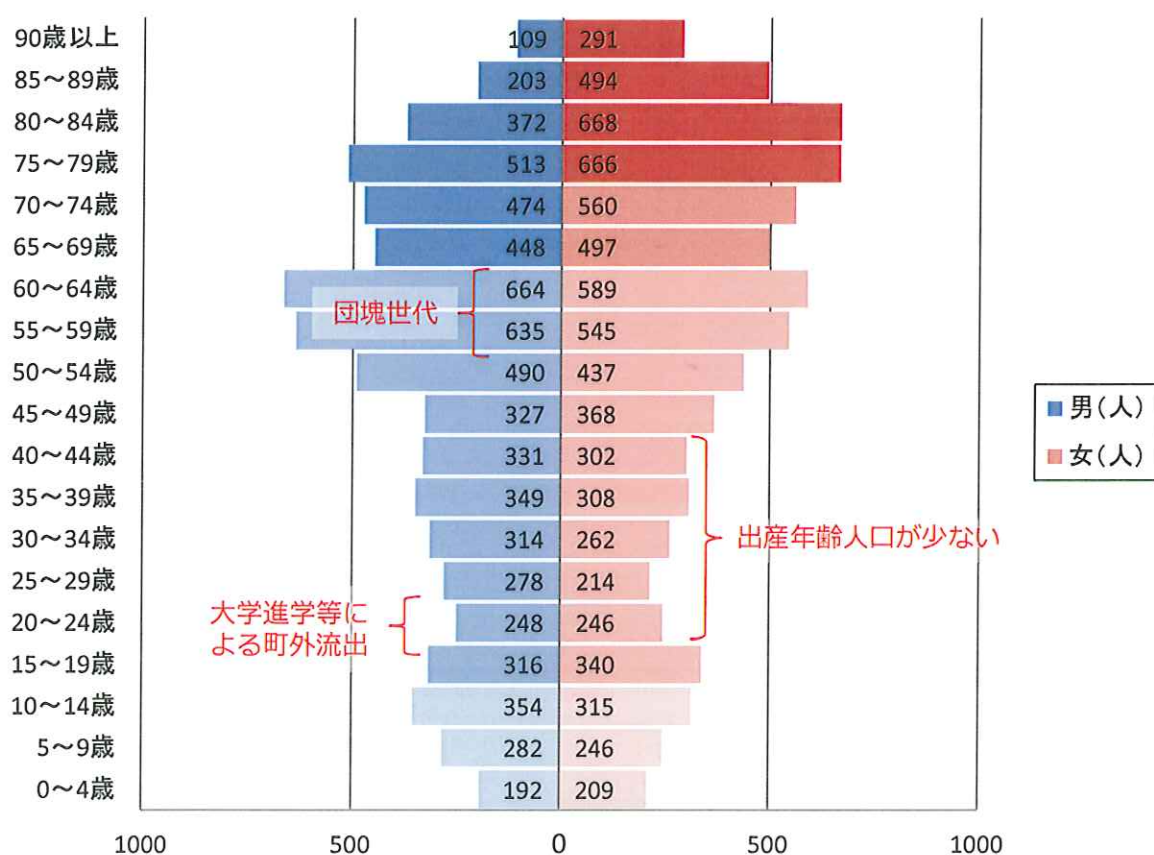


図 1 2010年（平成22年）人口ピラミッド

(出典：国勢調査)

(2) 総人口推移と将来推計

奥出雲町の人口は、1955年（昭和30年）から1970年（昭和45年）までの高度経済成長とともに急激に減少した。このころの人口減少率は12%前後となっている。この原因は、他の地域（東京圏等）へ大きな人口流出があったためと考えられる。しかし、その後は減少率が10%以下となり、特に1975年（昭和50年）から1985年（昭和60年）にかけては、減少率は1.8%となっている。

2015年以降の国立社会保障人口問題研究所（社人研）の推計によれば、今後、人口は急速に減少を続け、2040年には、約8,067人（現在から約39.0%減少）に、2060年には、約4,978人（現在から約62.4%減少）になるものと推計されている。

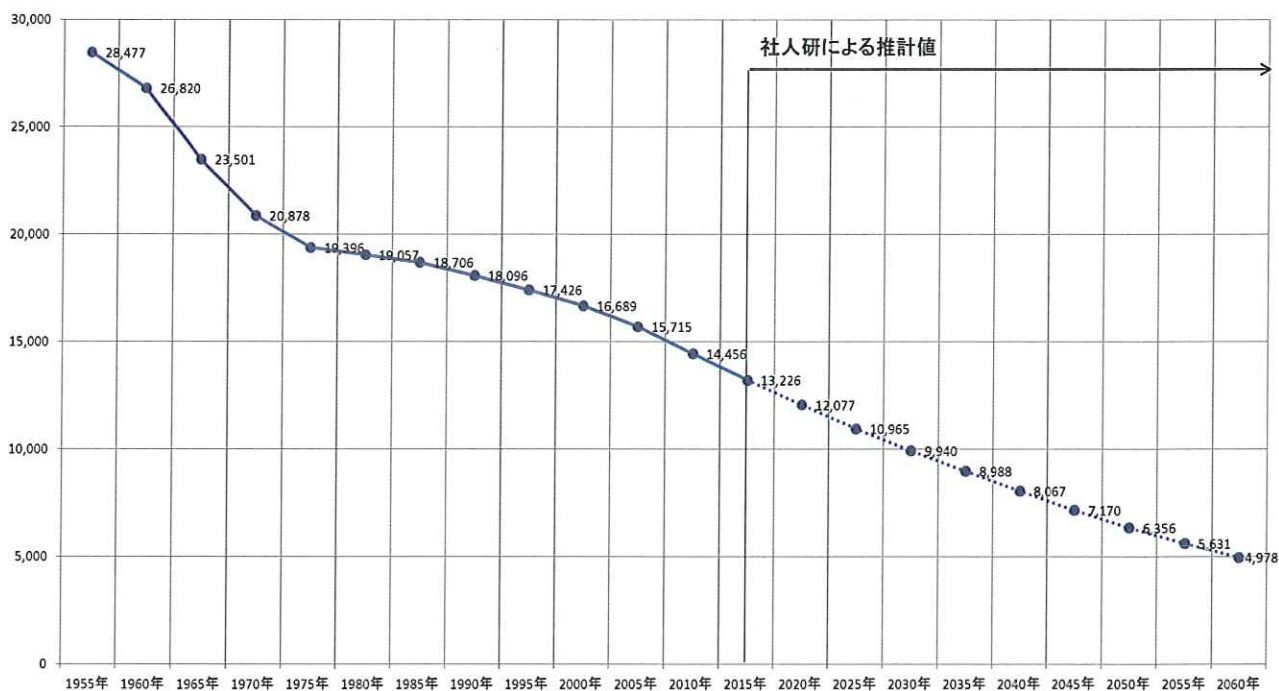


図 2 総人口の推移と将来推計

(出典：国勢調査)

(3) 年齢3区分別人口の推移

1975年から2010年にかけて総人口は約38%減少している。年齢3区分別人口の推移を見えると、老年人口は101%増加し、生産年齢人口は約40%、年少人口は約72%の減少となっている。

県内他地域と比較した場合、年少人口、生産年齢人口の減少率が高いことが特徴である。対1975年比における年少人口、生産年齢人口の減少率を島根県平均と比較すると、前者が約17%、後者が約22%減少幅が大きくなっている。



図3 年齢3区分人口と高齢化率の推移

(出典：国勢調査)

表 1 年齢 3 区分人口と人口減少率の推移
(奥出雲町、松江市、雲南市、邑南町、島根県)

			1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
奥出雲町	0～14歳	実数	4,200	3,864	3,669	3,271	2,889	2,420	2,035	1,598
		対1975年比	100%	92%	87%	78%	69%	58%	48%	38%
	15～64歳	実数	12,562	12,231	11,664	10,740	9,794	8,987	8,263	7,563
		対1975年比	100%	97%	93%	85%	78%	72%	66%	60%
	65歳以上	実数	2,634	2,962	3,373	4,085	4,743	5,282	5,417	5,295
		対1975年比	100%	112%	128%	155%	180%	201%	206%	201%
松江市	0～14歳	実数	41,909	43,221	42,264	37,898	34,636	32,424	29,650	28,117
		対1975年比	100%	103%	101%	90%	83%	77%	71%	67%
	15～64歳	実数	124,339	130,246	134,942	136,107	136,879	137,364	132,814	128,970
		対1975年比	100%	105%	109%	109%	110%	110%	107%	104%
	65歳以上	実数	17,892	20,652	23,814	28,719	35,161	41,586	46,620	51,529
		対1975年比	100%	115%	133%	161%	197%	232%	261%	288%
雲南市	0～14歳	実数	11,180	10,712	10,424	9,214	7,760	6,512	5,768	5,096
		対1975年比	100%	96%	93%	82%	69%	58%	52%	46%
	15～64歳	実数	33,586	33,387	32,177	30,458	28,617	26,473	24,687	23,010
		対1975年比	100%	99%	96%	91%	85%	79%	74%	69%
	65歳以上	実数	6,613	7,378	8,380	9,865	11,868	13,337	13,929	13,787
		対1975年比	100%	112%	127%	149%	179%	202%	211%	208%
邑南町	0～14歳	実数	3,042	2,788	2,652	2,356	2,030	1,688	1,425	1,273
		対1975年比	100%	92%	87%	77%	67%	55%	47%	42%
	15～64歳	実数	10,588	9,641	9,402	8,448	7,511	6,920	6,402	5,835
		対1975年比	100%	91%	89%	80%	71%	65%	60%	55%
	65歳以上	実数	3,029	3,305	3,741	4,289	4,915	5,180	5,117	4,850
		対1975年比	100%	109%	124%	142%	162%	171%	169%	160%
島根県	0～14歳	実数	168,072	167,310	162,817	143,547	126,403	111,982	100,542	92,218
		対1975年比	100%	100%	97%	85%	75%	67%	60%	55%
	15～64歳	実数	504,941	509,938	510,054	493,064	477,919	460,103	439,471	414,153
		対1975年比	100%	101%	101%	98%	95%	91%	87%	82%
	65歳以上	実数	95,831	107,479	121,744	141,885	167,040	189,031	201,103	207,398
		対1975年比	100%	112%	127%	148%	174%	197%	210%	216%

(4) 地区別年齢3区分人口の推移

地区別の人口推移をみると、減少率が最も大きいのが布勢地区であり、過去15年間に於いて約22%の減少となっている。その他、減少率の大きい順に馬木地区(同22%)、鳥上地区(同21%)となっている。いずれの地区も人口減少が見られるが、最も減少率が小さいのが三成地区で、約5.2%の減少にとどまっている。

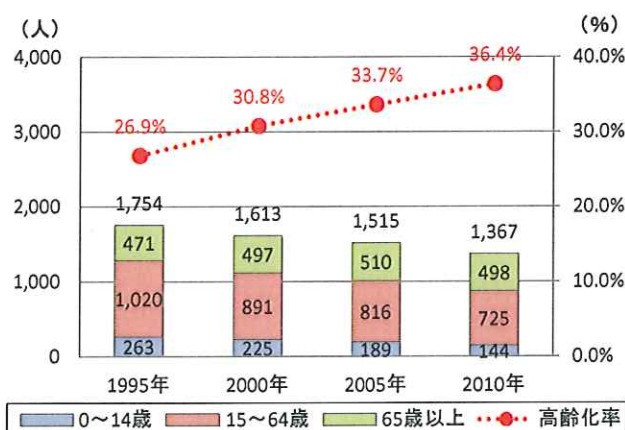


図4 布勢地区年齢3区分人口・高齢化率の推移

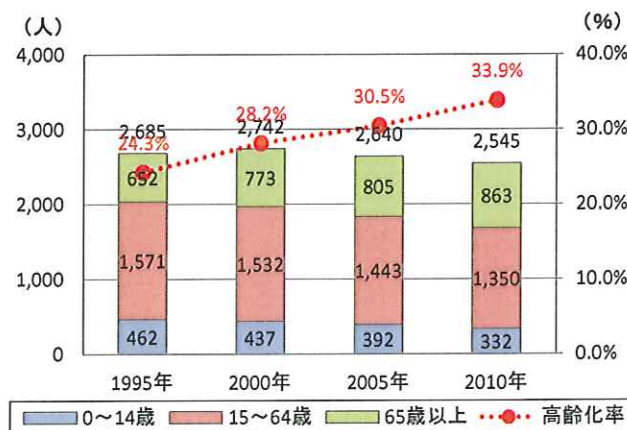


図5 三成地区年齢3区分人口・高齢化率の推移

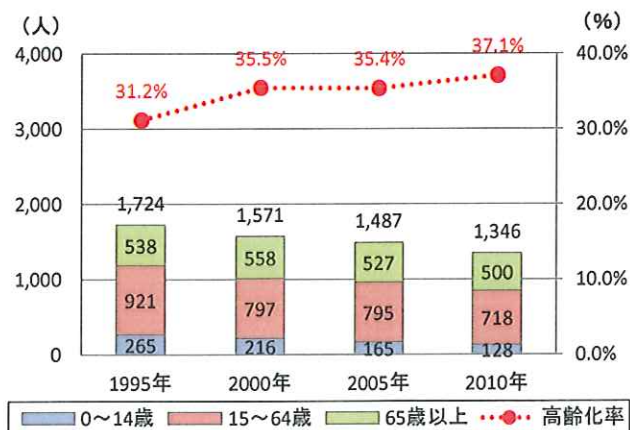


図6 亀嵩地区年齢3区分人口・高齢化率の推移

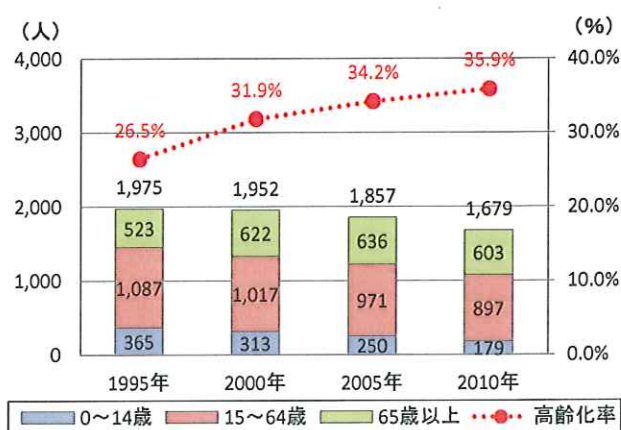


図7 阿井地区年齢3区分人口・高齢化率の推移

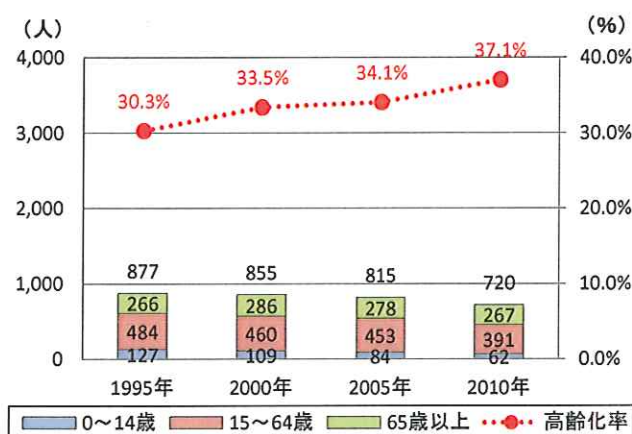


図 8 三沢地区年齢3区分人口・高齢化率の推移

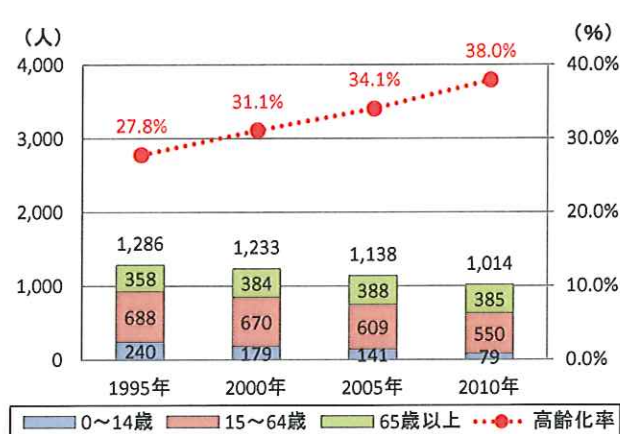


図 9 鳥上地区年齢3区分人口・高齢化率の推移

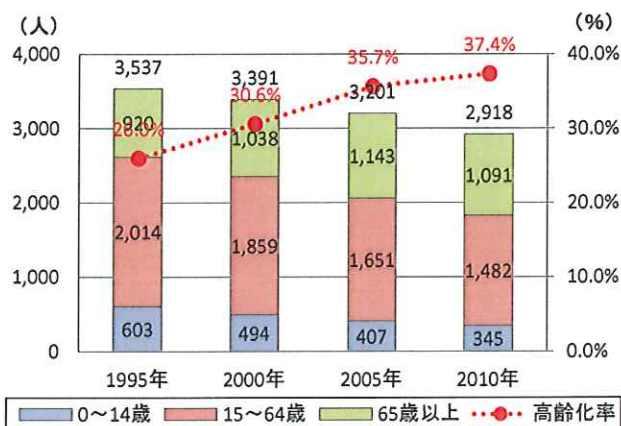


図 10 横田地区年齢3区分人口・高齢化率の推移

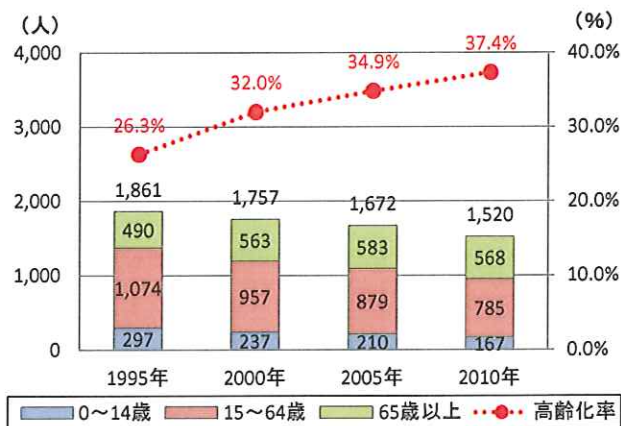


図 11 八川地区年齢3区分人口・高齢化率の推移

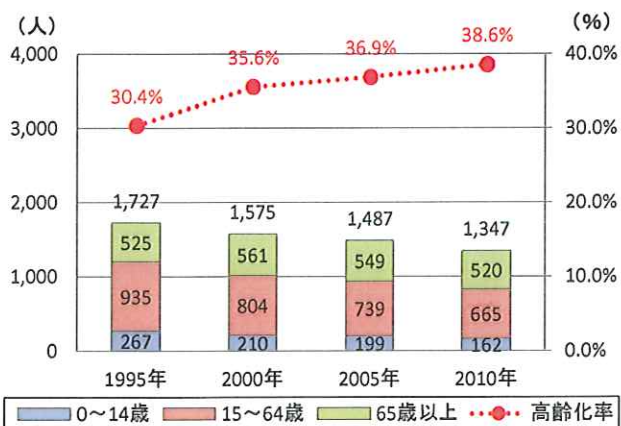


図 12 馬木地区年齢3区分人口・高齢化率の推移

表 2 地区別人口の推移と減少率

		1995年	2000年	2005年	2010年	1995年→ 2010年 増減数	1995年→ 2010年 増減率
布勢地区	0～14歳	263	225	189	144	-119	-45.2%
	15～64歳	1,020	891	816	725	-295	-28.9%
	65歳以上	471	497	510	498	27	5.7%
	合計	1,754	1,613	1,515	1,367	-387	-22.1%
三成地区	0～14歳	462	437	392	332	-130	-28.1%
	15～64歳	1,571	1,532	1,443	1,350	-221	-14.1%
	65歳以上	652	773	805	863	211	32.4%
	合計	2,685	2,742	2,640	2,545	-140	-5.2%
亀嵩地区	0～14歳	265	216	165	128	-137	-51.7%
	15～64歳	921	797	795	718	-203	-22.0%
	65歳以上	538	558	527	500	-38	-7.1%
	合計	1,724	1,571	1,487	1,346	-378	-21.9%
阿井地区	0～14歳	365	313	250	179	-186	-51.0%
	15～64歳	1,087	1,017	971	897	-190	-17.5%
	65歳以上	523	622	636	603	80	15.3%
	合計	1,975	1,952	1,857	1,679	-296	-15.0%
三沢地区	0～14歳	127	109	84	62	-65	-51.2%
	15～64歳	484	460	453	391	-93	-19.2%
	65歳以上	266	286	278	267	1	0.4%
	合計	877	855	815	720	-157	-17.9%
鳥上地区	0～14歳	240	179	141	79	-161	-67.1%
	15～64歳	688	670	609	550	-138	-20.1%
	65歳以上	358	384	388	385	27	7.5%
	合計	1,286	1,233	1,138	1,014	-272	-21.2%
横田地区	0～14歳	603	494	407	345	-258	-42.8%
	15～64歳	2014	1859	1651	1482	-532	-26.4%
	65歳以上	920	1038	1143	1091	171	18.6%
	合計	3,537	3,391	3,201	2,918	-619	-17.5%
八川地区	0～14歳	297	237	210	167	-130	-43.8%
	15～64歳	1074	957	879	785	-289	-26.9%
	65歳以上	490	563	583	568	78	15.9%
	合計	1,861	1,757	1,672	1,520	-341	-18.3%
馬木地区	0～14歳	267	210	199	162	-105	-39.3%
	15～64歳	935	804	739	665	-270	-28.9%
	65歳以上	525	561	549	520	-5	-1.0%
	合計	1,727	1,575	1,487	1,347	-380	-22.0%

(出典：国勢調査)

（５）出生・死亡・転入・転出の推移

出生数から死亡数を差し引いた自然増減は、1975年～1990年までは出生数が死亡数を上回る「自然増」の状態が続いていたが、1990年を境に「自然減」に転じ、以後、年々、減少幅が増加傾向にある。直近の2010年においては、－184人の自然減となっている。他方、転入者数と転出者数を差し引いた社会増減は、1975年以降、一貫して転入者数を転出者数が上回る「社会減」で推移している。

「社会減」の傾向は、1975年～1990年までは、年間100～200人程度の転出超過で推移してきたが、1995年には－21人の社会減と、大きく減少幅を改善している。その後、2005年までは－40人以下の社会減を維持してきたが、2010年においては町外からの転入者の急減により、－163人の社会減となっている。

95年から14年における転入者数、転出者数の変化率をみると、前者が対95年比で－24%の減少であるのに対し、後者は対95年比で＋3%となっている。近年の社会増減の影響は、転入者数の減少による影響が大きい。また、人口減少への影響度合いは、1990年までは社会減による影響が卓越していたものの、1995年に一時的に逆転し、以後、ほぼ同程度の影響となっている。

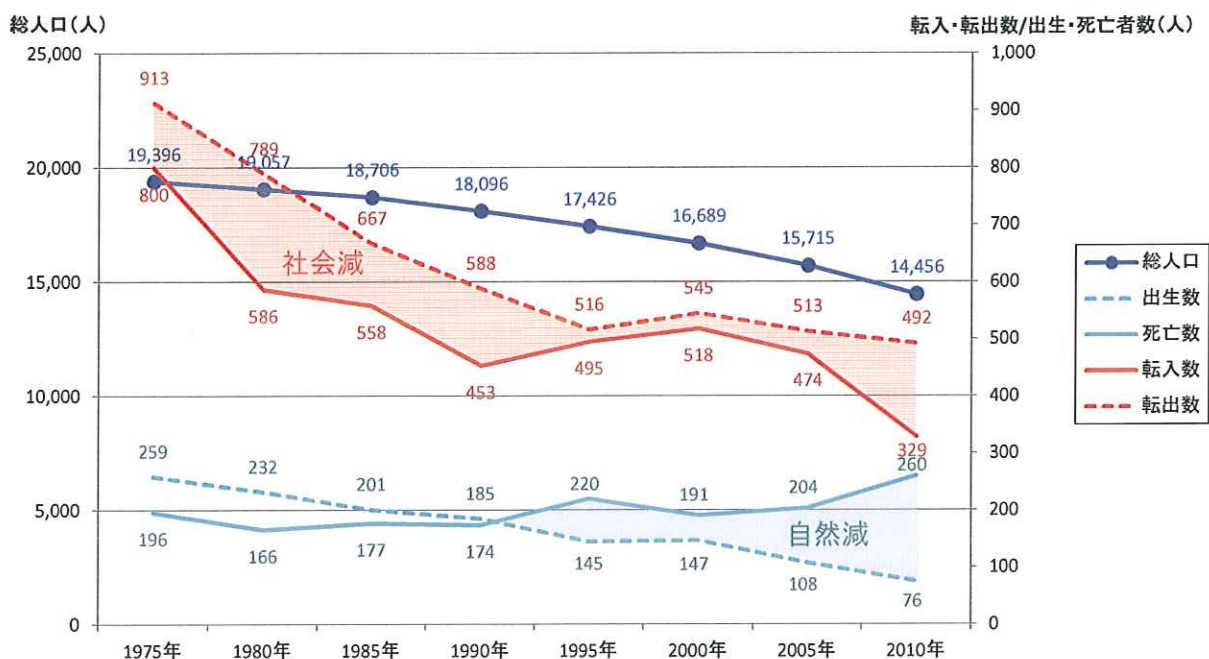


図 13 総人口と出生・死亡、転入・転出の推移

(出典：国勢調査)

2) 自然動態の分析

(1) 自然動態の推移

1975 年以降、出生数は減少傾向にある。出生数は、1995 年から 2000 年においても一次的に増加に転じたが、その後、減少に転じ 2000 年から 2010 年までの 10 年間で半減している。

一方、死亡数は概ね 200 人前後となっているが、2005 年・2010 年と 200 人を上回っている。老年人口が増加傾向にあることから、今後も死亡数は増加することが見込まれ、益々自然減の傾向が進むものと予想される。

出生・死亡(人)

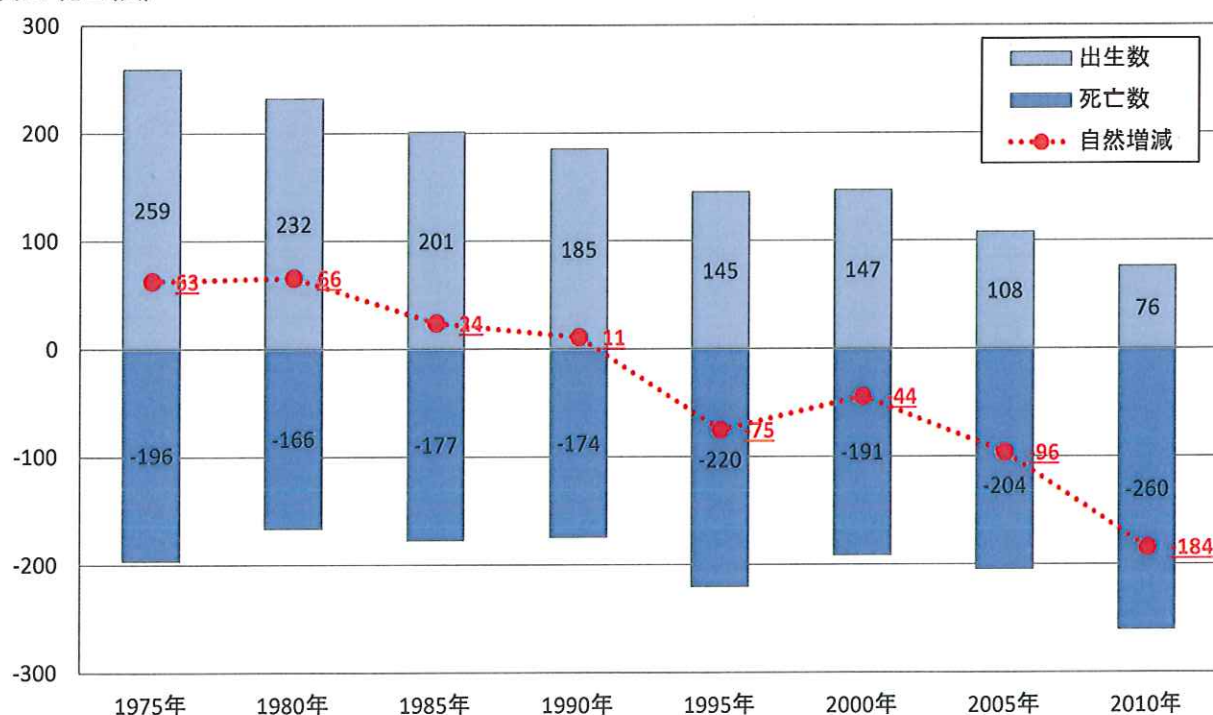


図 14 自然動態

(出典：国勢調査)

（２）母親世代人口の推移

母親世代（15～49 歳女性）の人口は 1975 年以降、減少傾向で推移し 1975 年から 2010 年までに約 54% の減少となっている。

生産年齢人口の減少率が約 40% であるの対し、母親世代の減少率は約 14% 減少している。母親世代人口の減少率は、島根県平均に比して約 20% 程度高い値となり、県内他地域では、邑南町（57.7%）と同程度の高い値となっている。

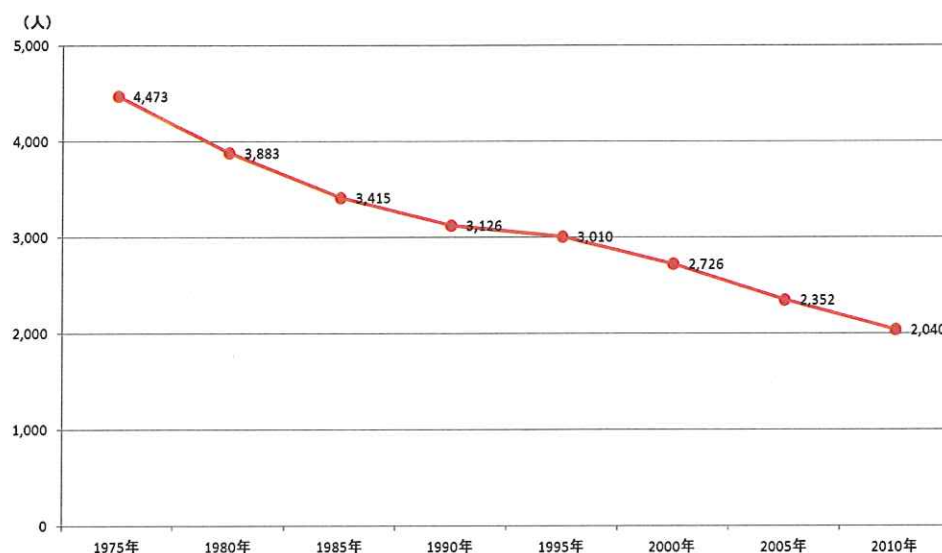


図 15 母親世代（15～49 歳）女性人口の推移

（出典：国勢調査）

表 3 母親世代（15～49 歳）女性人口の推移
（奥出雲町、松江市、雲南市、邑南町、島根県）

		1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
奥出雲町	実数	4,473	3,883	3,415	3,126	3,010	2,726	2,352	2,040
	対1975年比	100%	87%	76%	70%	67%	61%	53%	46%
松江市	実数	49,781	49,504	48,842	48,958	48,643	46,795	43,943	41,766
	対1975年比	100%	99%	98%	98%	98%	94%	88%	84%
雲南市	実数	12,037	10,938	9,937	9,445	9,168	8,139	7,412	6,601
	対1975年比	100%	91%	83%	78%	76%	68%	62%	55%
邑南町	実数	3,559	2,888	2,616	2,325	2,214	2,023	1,752	1,507
	対1975年比	100%	81%	74%	65%	62%	57%	49%	42%
島根県	実数	190,938	180,821	171,156	165,536	160,400	149,528	137,800	125,956
	対1975年比	100%	95%	90%	87%	84%	78%	72%	66%

(3) 合計特殊出生率の推移

1人の女性が一生に産む子どもの数の平均である合計特殊出生率は、1983年から1992年は、2.4を上回る値であったが、92年以降低下し、2003～2007年の平均値は1.55となっている。その後わずかに持ち直し、2008年～2012年の平均値は1.62となっている。近隣市町と比較し、高水準で推移してきたが2003年～2007年の平均値で大きく低下して以降、本町の値は島根県平均を下回る規模となっている。

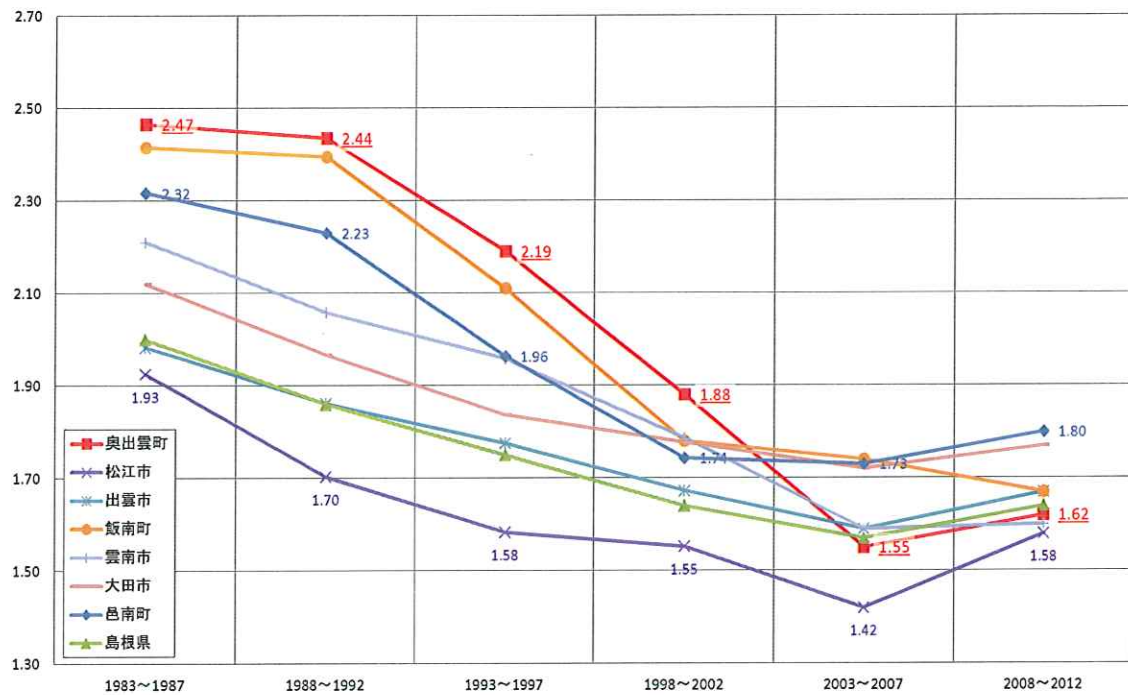


図 16 合計特殊出生率の推移

(出典：人口動態保健所・市区町村別統計)

(4) 男女別・年齢階級別未婚率の推移

15～49 歳の男女別の未婚率の推移を見ると、1980 年以降、男女とも未婚率の割合が増加傾向にある。このうち、15～39 歳の男女別の未婚率は、男性が 71.9%、女性が 57.0%と、女性に比して男性の割合が約 15%高くなっている。2010 年における 40～44 歳の男女別の未婚率を見ると女性が 9.3%であるのに対し、男性は 25.1%と卓越し、女性に比して男性の晩婚化の傾向が見て取れる。

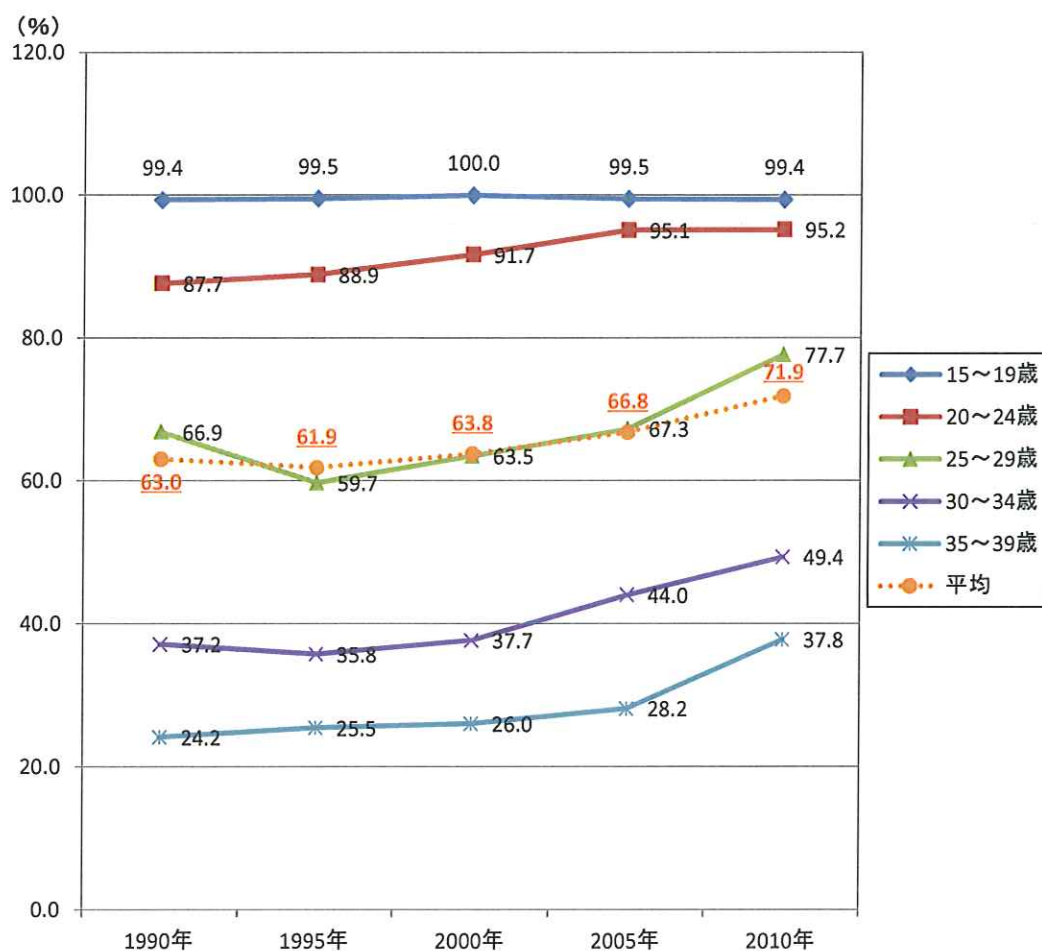


図 17 未婚率の推移（男性）

(出典：国勢調査)

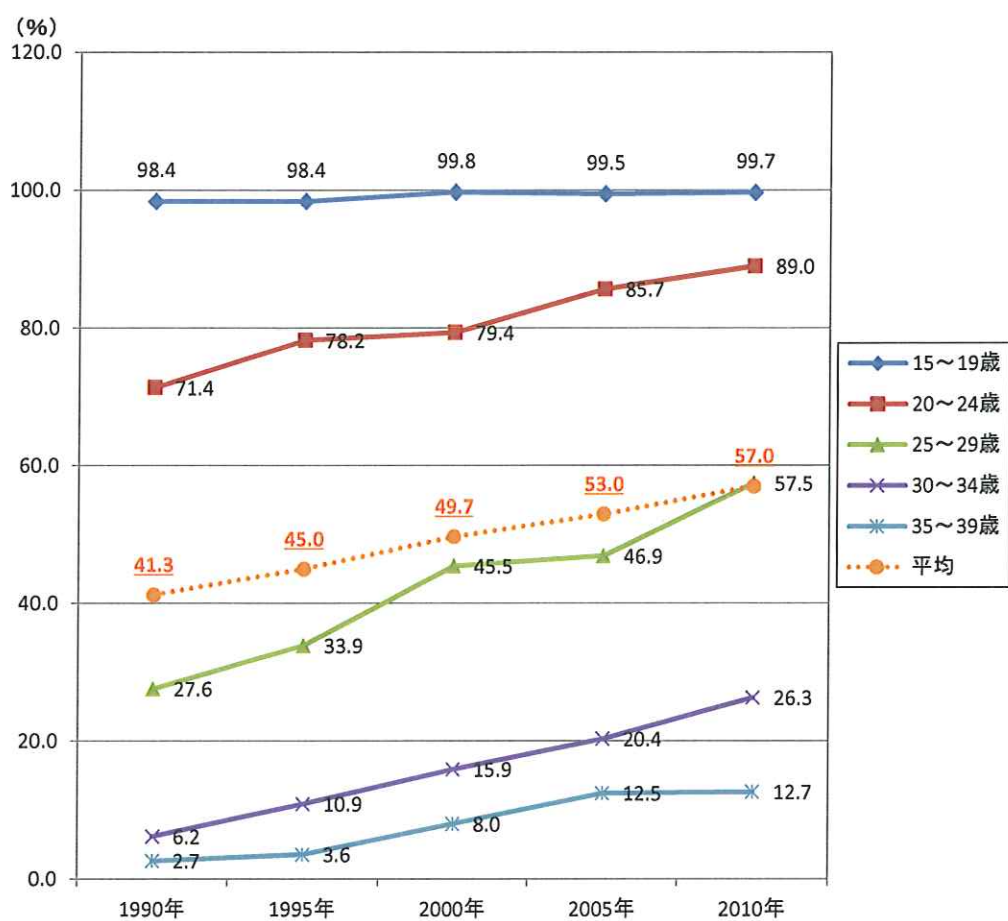


図 18 未婚率の推移（女性）

（出典：国勢調査）

表 4 年齢階級別未婚率
(奥出雲町、松江市、雲南市、邑南町)

奥出雲町		男性					女性				
		1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
15～19歳	総数	465	427	449	390	316	449	444	426	392	340
	未婚者数	462	425	449	388	314	442	437	425	390	339
	未婚率	99.4	99.5	100.0	99.5	99.4	98.4	98.4	99.8	99.5	99.7
20～24歳	総数	243	288	300	306	248	213	271	252	258	246
	未婚者数	213	256	275	291	236	152	212	200	221	219
	未婚率	87.7	88.9	91.7	95.1	95.2	71.4	78.2	79.4	85.7	89.0
25～29歳	総数	323	298	326	327	278	351	301	308	307	214
	未婚者数	216	178	207	220	216	97	102	140	144	123
	未婚率	66.9	59.7	63.5	67.3	77.7	27.6	33.9	45.5	46.9	57.5
30～34歳	総数	487	344	313	336	314	417	393	301	334	262
	未婚者数	181	123	118	148	155	26	43	48	68	69
	未婚率	37.2	35.8	37.7	44.0	49.4	6.2	10.9	15.9	20.4	26.3
35～39歳	総数	650	479	338	316	349	557	444	373	313	308
	未婚者数	157	122	88	89	132	15	16	30	39	39
	未婚率	24.2	25.5	26.0	28.2	37.8	2.7	3.6	8.0	12.5	12.7
40～44歳	総数	665	642	477	335	331	614	551	447	389	302
	未婚者数	76	130	98	76	83	18	13	16	24	28
	未婚率	11.4	20.2	20.5	22.7	25.1	2.9	2.4	3.6	6.2	9.3
45～49歳	総数	508	665	651	494	327	525	606	546	447	368
	未婚者数	25	61	126	97	71	14	15	14	16	20
	未婚率	4.9	9.2	19.4	19.6	21.7	2.7	2.5	2.6	3.6	5.4
松江市		男性					女性				
		1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
15～19歳	総数	8,583	7,783	7,353	6,272	5,573	7,530	6,881	6,402	5,476	4,802
	未婚者数	8,486	7,719	7,336	6,255	5,525	7,404	6,823	6,366	5,441	4,750
	未婚率	98.9	99.2	99.8	99.7	99.1	98.3	99.2	99.4	99.4	98.9
20～24歳	総数	5,932	7,115	6,942	5,926	4,903	6,350	7,190	6,542	5,548	4,477
	未婚者数	5,441	6,460	6,423	5,509	4,527	5,462	6,149	5,793	4,957	4,002
	未婚率	91.7	90.8	92.5	93.0	92.3	86.0	85.5	88.6	89.3	89.4
25～29歳	総数	5,367	5,843	7,037	5,601	4,850	6,163	6,088	7,066	5,640	4,885
	未婚者数	3,225	3,675	4,569	3,767	3,272	2,488	2,835	3,607	3,260	2,862
	未婚率	60.1	62.9	64.9	67.3	67.5	40.4	46.6	51.0	57.8	58.6
30～34歳	総数	6,119	5,896	6,429	6,590	5,699	6,312	6,307	6,376	6,608	5,593
	未婚者数	1,846	2,026	2,521	2,922	2,482	754	1,201	1,534	1,980	1,844
	未婚率	30.2	34.4	39.2	44.3	43.6	11.9	19.0	24.1	30.0	33.0
35～39歳	総数	7,257	6,398	6,225	5,885	6,612	7,038	6,470	6,524	5,937	6,518
	未婚者数	1,168	1,338	1,566	1,687	2,240	430	568	859	1,037	1,362
	未婚率	16.1	20.9	25.2	28.7	33.9	6.1	8.8	13.2	17.5	20.9
40～44歳	総数	8,516	7,455	6,580	5,709	5,915	8,531	7,186	6,609	6,127	5,986
	未婚者数	819	1,052	1,107	1,188	1,525	449	397	477	710	938
	未婚率	9.6	14.1	16.8	20.8	25.8	5.3	5.5	7.2	11.6	15.7
45～49歳	総数	6,636	8,452	7,560	6,046	5,771	7,034	8,521	7,183	6,130	6,090
	未婚者数	345	806	998	986	1,128	295	447	375	451	705
	未婚率	5.2	9.5	13.2	16.3	19.5	4.2	5.2	5.2	7.4	11.6

雲南市		男性					女性				
		1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
15～19歳	総数	1,487	1,484	1,190	988	835	1,418	1,351	1,210	905	851
	未婚者数	1,472	1,478	1,184	984	833	1,406	1,341	1,200	898	848
	未婚率	99.0	99.6	99.5	99.6	99.8	99.2	99.3	99.2	99.2	99.6
20～24歳	総数	839	1,021	1,020	838	616	901	1,011	839	876	622
	未婚者数	762	909	915	749	568	732	825	698	740	530
	未婚率	90.8	89.0	89.7	89.4	92.2	81.2	81.6	83.2	84.5	85.2
25～29歳	総数	1,107	994	1,175	1,189	925	1,049	1,025	1,076	1,067	915
	未婚者数	736	627	763	811	622	377	453	510	550	518
	未婚率	66.5	63.1	64.9	68.2	67.2	35.9	44.2	47.4	51.5	56.6
30～34歳	総数	1,360	1,104	999	1,143	1,165	1,338	1,096	1,005	1,128	1,052
	未婚者数	512	438	421	517	560	109	163	246	287	302
	未婚率	37.6	39.7	42.1	45.2	48.1	8.1	14.9	24.5	25.4	28.7
35～39歳	総数	1,801	1,379	1,129	1,011	1,140	1,589	1,349	1,093	1,019	1,092
	未婚者数	377	362	322	309	420	63	67	102	165	197
	未婚率	20.9	26.3	28.5	30.6	36.8	4.0	5.0	9.3	16.2	18.0
40～44歳	総数	1,992	1,806	1,365	1,119	1,018	1,756	1,597	1,338	1,080	1,003
	未婚者数	228	327	301	274	268	53	64	58	89	136
	未婚率	11.4	18.1	22.1	24.5	26.3	3.0	4.0	4.3	8.2	13.6
45～49歳	総数	1,345	1,996	1,830	1,332	1,107	1,394	1,739	1,578	1,337	1,066
	未婚者数	52	221	306	286	274	27	56	59	56	78
	未婚率	3.9	11.1	16.7	21.5	24.8	1.9	3.2	3.7	4.2	7.3
邑南町		男性					女性				
		1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
15～19歳	総数	384	342	313	258	202	339	320	301	257	201
	未婚者数	381	341	313	258	201	334	316	299	255	200
	未婚率	99.2	99.7	100.0	100.0	99.5	98.5	98.8	99.3	99.2	99.5
20～24歳	総数	160	182	214	171	147	132	154	180	134	122
	未婚者数	148	163	185	149	122	97	122	149	106	98
	未婚率	92.5	89.6	86.4	87.1	83.0	73.5	79.2	82.8	79.1	80.3
25～29歳	総数	260	234	303	249	190	224	249	244	201	174
	未婚者数	163	146	205	179	128	63	96	115	93	87
	未婚率	62.7	62.4	67.7	71.9	67.4	28.1	38.6	47.1	46.3	50.0
30～34歳	総数	352	273	237	318	262	349	265	249	283	226
	未婚者数	125	88	96	151	137	25	34	57	81	68
	未婚率	35.5	32.2	40.5	47.5	52.3	7.2	12.8	22.9	28.6	30.1
35～39歳	総数	484	332	258	243	322	427	347	260	264	279
	未婚者数	122	79	65	80	127	28	18	23	47	62
	未婚率	25.2	23.8	25.2	32.9	39.4	6.6	5.2	8.8	17.8	22.2
40～44歳	総数	535	471	347	264	240	440	428	350	264	242
	未婚者数	71	107	70	60	78	20	25	20	19	38
	未婚率	13.3	22.7	20.2	22.7	32.5	4.5	5.8	5.7	7.2	15.7
45～49歳	総数	378	531	471	361	266	414	451	439	349	263
	未婚者数	34	77	103	73	65	13	25	25	17	21
	未婚率	9.0	14.5	21.9	20.2	24.4	3.1	5.5	5.7	4.9	8.0

(出典：国勢調査)

(5) 子どもの人数別夫婦のいる一般世帯数

夫婦のいる一般世帯数を子どもの人数別にみると、本町の約 4 割の夫婦のいる一般世帯に子どもがいない。子どもを持つ世帯では子どもが 2 人いる世帯が最も多い。子どもが 3 人いる世帯の割合は県平均と比べるとやや高い。

また、親族との同居率は 36% となっており、近隣地域では雲南市と同程度で、他地域と比べて同居率は高い。

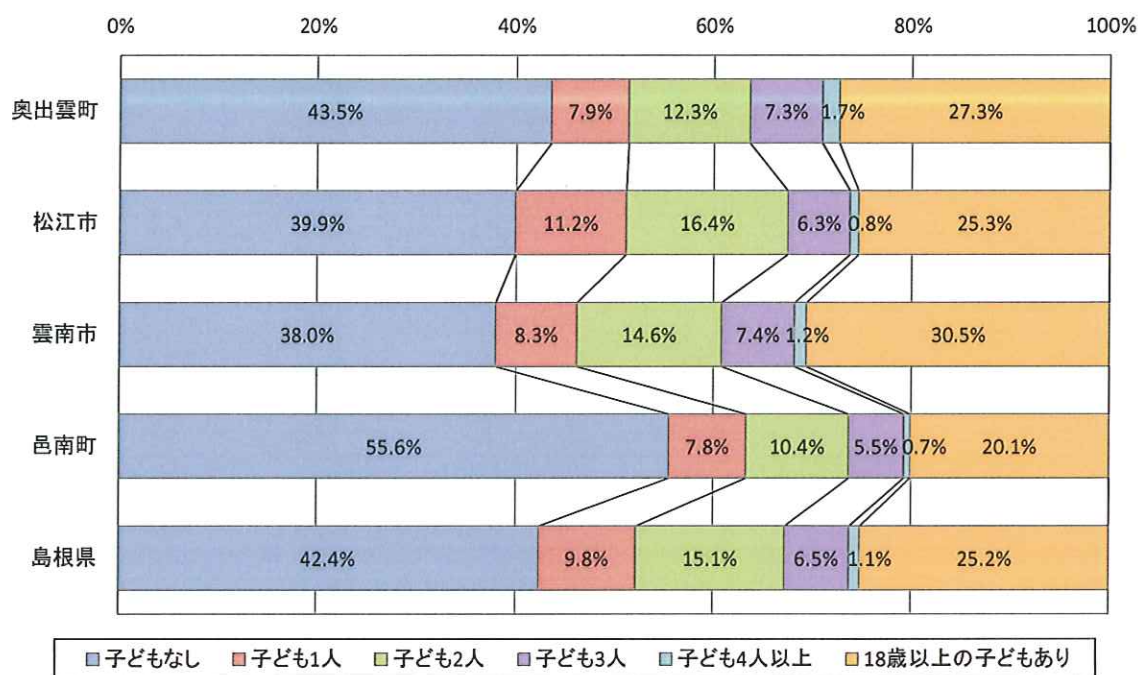


図 19 夫婦のいる一般世帯における子どもの人数

表 5 夫婦のいる一般世帯における子どもの人数
(奥出雲町、松江市、雲南市、邑南町、島根県)

	奥出雲町		松江市		雲南市		邑南町		島根県	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
総数	3,077	100.0%	42,302	100.0%	9,121	100.0%	2,718	100.0%	159,763	100.0%
子どもなし	1,340	43.5%	16,891	39.9%	3,463	38.0%	1,510	55.6%	67,732	42.4%
子ども1人	242	7.9%	4,754	11.2%	753	8.3%	212	7.8%	15,691	9.8%
子ども2人	377	12.3%	6,930	16.4%	1,333	14.6%	282	10.4%	24,113	15.1%
子ども3人	225	7.3%	2,648	6.3%	676	7.4%	150	5.5%	10,336	6.5%
子ども4人以上	53	1.7%	358	0.8%	110	1.2%	18	0.7%	1,709	1.1%
18歳以上の子どもあり	840	27.3%	10,721	25.3%	2,786	30.5%	546	20.1%	40,182	25.2%

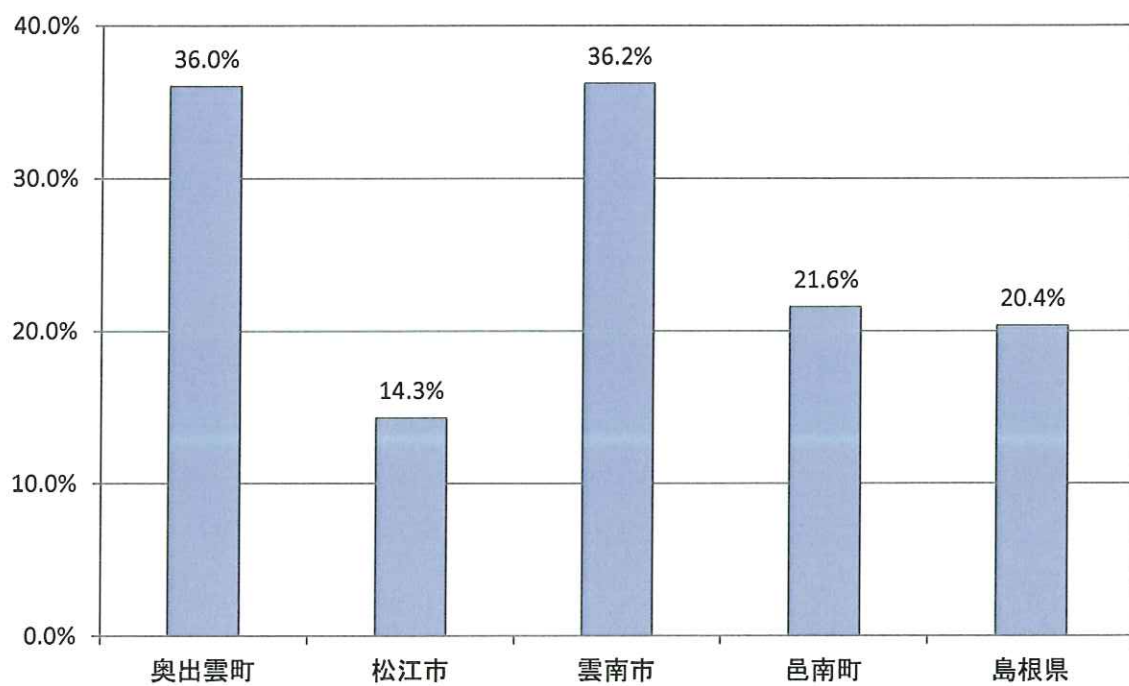


図 20 親族との同居率

(出典：国勢調査)

3) 社会動態の分析

(1) 社会動態の推移

社会動態をみると、1975年や1980年は800人～900人と多くの転出があったが、転出数は徐々に減少し、1990年以降は400人～500人で推移している。県内・県外の状況をみると、県外より県内への転出が多いことが分かる。

転入については1975年以降減少傾向だったが、1995年から2005年はやや転入がやや増加した。県内・県外の状況をみると、県外より県内からの転入が多いことが分かる。

転入・転出(人)

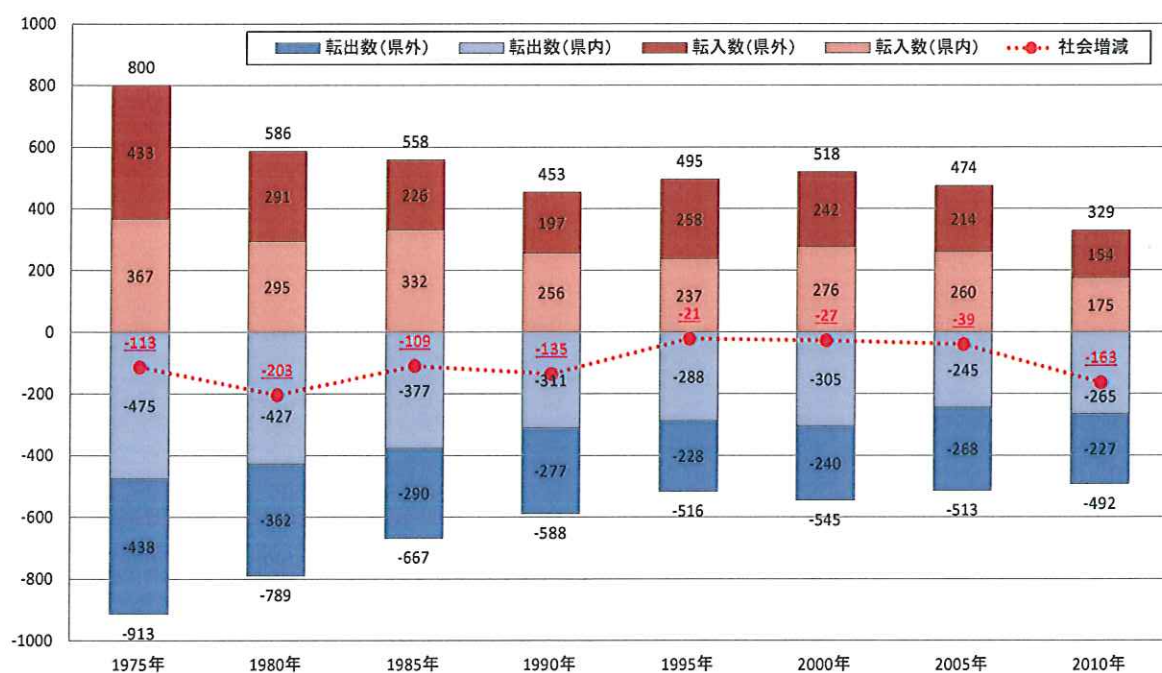


図 21 社会動態

(出典：国勢調査)

（２）県外・県内市町への人口移動の最近の状況

県外・県内市町への人口移動（転入－転出）を見ると、2009年から2010年は大半が松江市及び県外へ人口が流出している。

2011年においては、松江市及び県外への移動数が大幅に減少し、以後、2013年まで同様の傾向で推移している。2013年から2014年にかけて、再び、松江市、県外への移動数がそれぞれ二倍以上増加している。

その他、2013年において、出雲市への移動数が一時的に大きくなっている

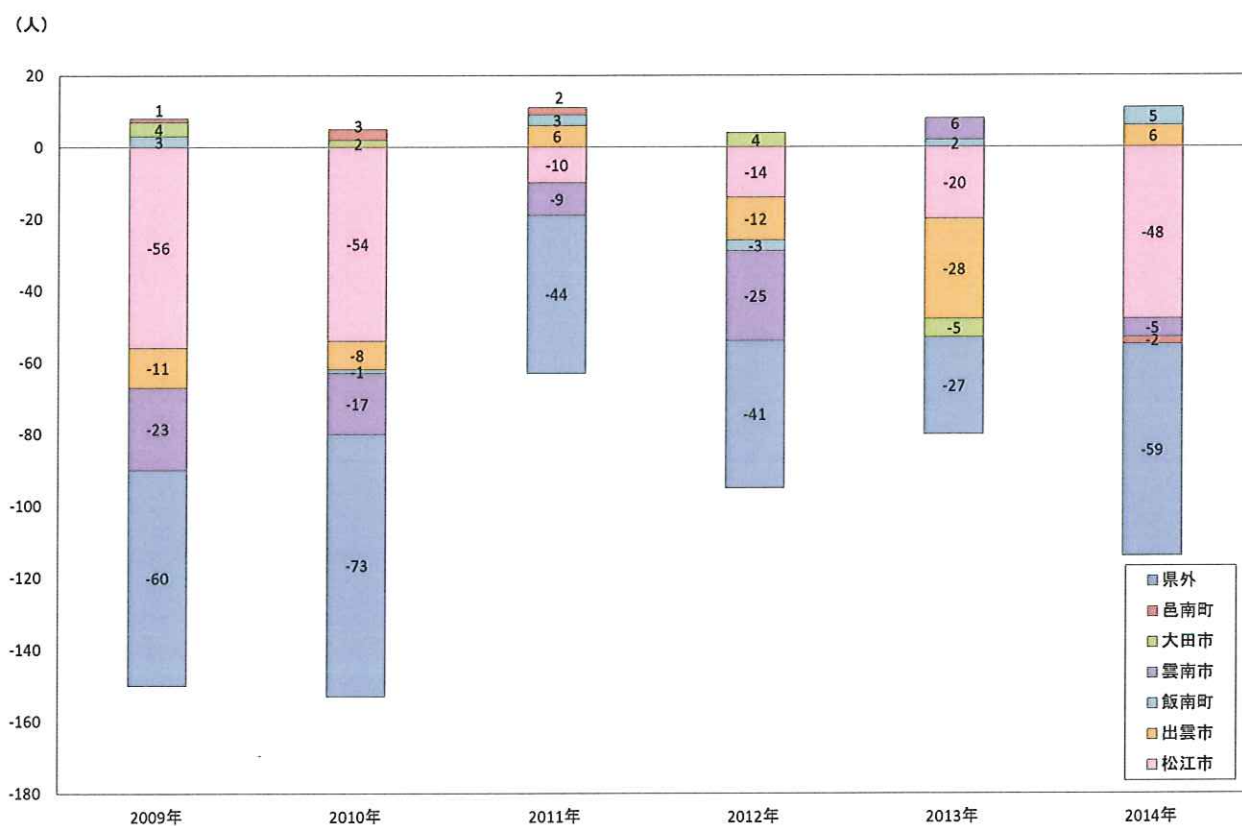


図 22 県外・県内市町への人口移動の最近の状況

(出典：住民基本台帳)

（３）2014 年度（平成 26 年度）の主な人口移動状況

2014 年度における近隣市町及び県外との人口移動の差引をみると、圧倒的に松江市への転出超過となっている。その他の市町については概ね均衡しているが、県外各地へは松江市を上回る人数が流出している。

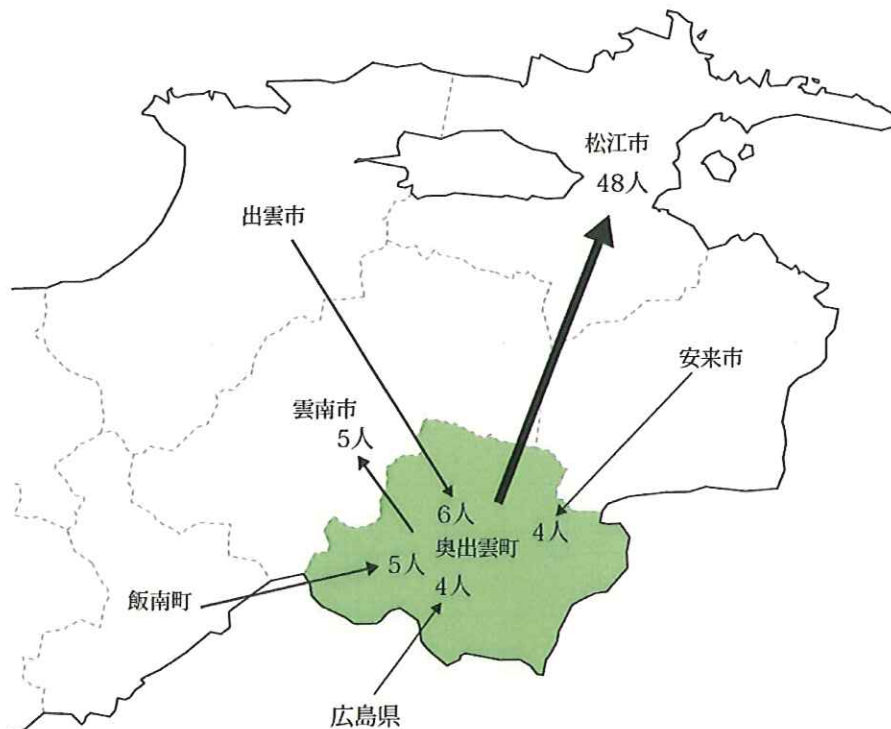


図 23 2014 年度（平成 26 年度）の主な人口移動状況

（出典：平成 26 年島根の人口移動と推計人口）

表 6 移動状況詳細

	転入	転出	差
松江市	56	104	-48
出雲市	53	47	6
雲南市	33	38	-5
安来市	14	10	4
大田市	6	6	0
飯南町	5	0	5
邑南町	1	3	-2
広島県	34	30	4
鳥取県	23	23	0
その他県内	17	21	-4
その他県外	68	129	-61
合計	310	411	-101

（出典：平成 26 年島根の人口移動と推計人口）

(3) 2014 年度（平成 26 年度）転入・転出理由

理由別の転入者数は、「就学（卒業）」が最も多く 53 人となり、次いで「退職・家族の理由（38 人）」、「結婚・離婚（37 人）」、「転勤（32 人）」の順となる。

理由別の転出者数は、就職が最も多く－104 人となり、次いで「就学・卒業（65 人）」「結婚・離婚（41 人）」「転勤（36 人）」の順となる。社会減は、「就職」を理由とするものが最も大きく、町内居住に向けた雇用対策が課題である。

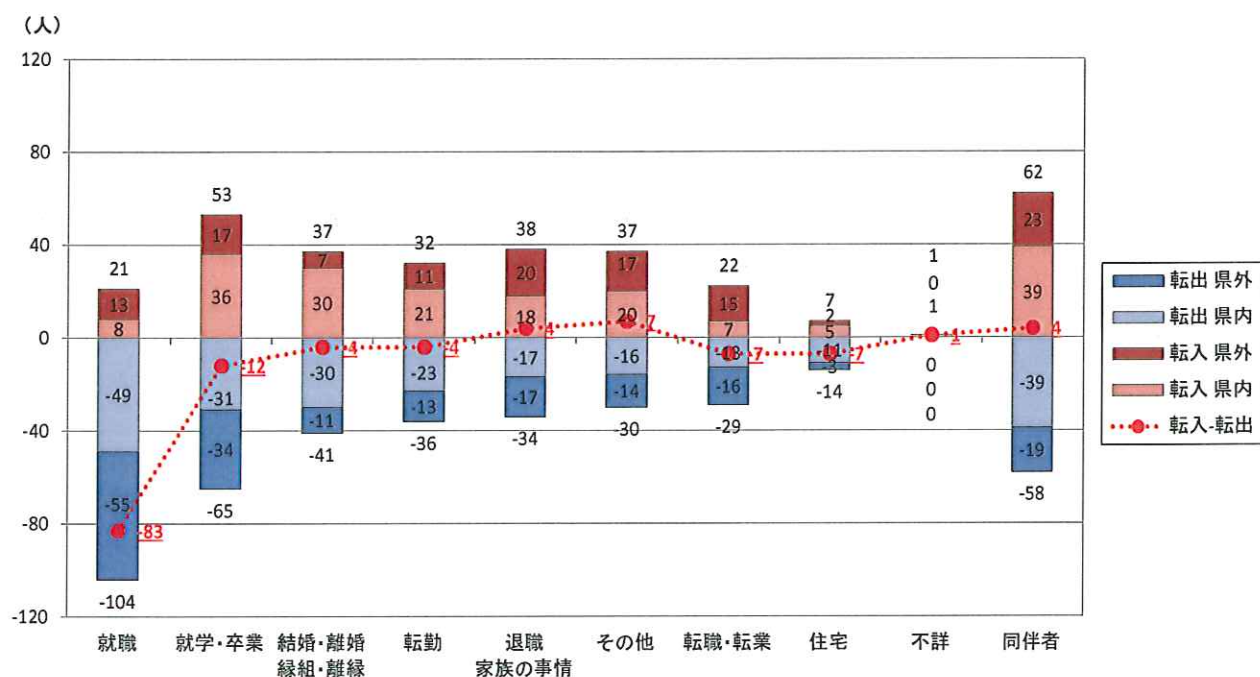


図 24 2014 年度（平成 26 年度）転入・転出理由

（出典：平成 26 年島根の人口移動と推計人口）

4) 年齢階級別の人口移動分析

(1) 性別・年齢階級別の人口移動

男女別・年齢階級別の人口移動を見ると、男女とも高校・大学への進学タイミングで大幅な町外への転出超過となっている。男性では30～34歳～35～39歳になる時期に転入超過に転じている。

女性では、転出超過の傾向が続いている。就職、結婚・離婚、転勤（同伴含む）等が理由として推察される。出生数を左右する母世代（15～49歳の女性人口）がいずれも社会減となっており、この世代の人口流出の抑制が課題である。

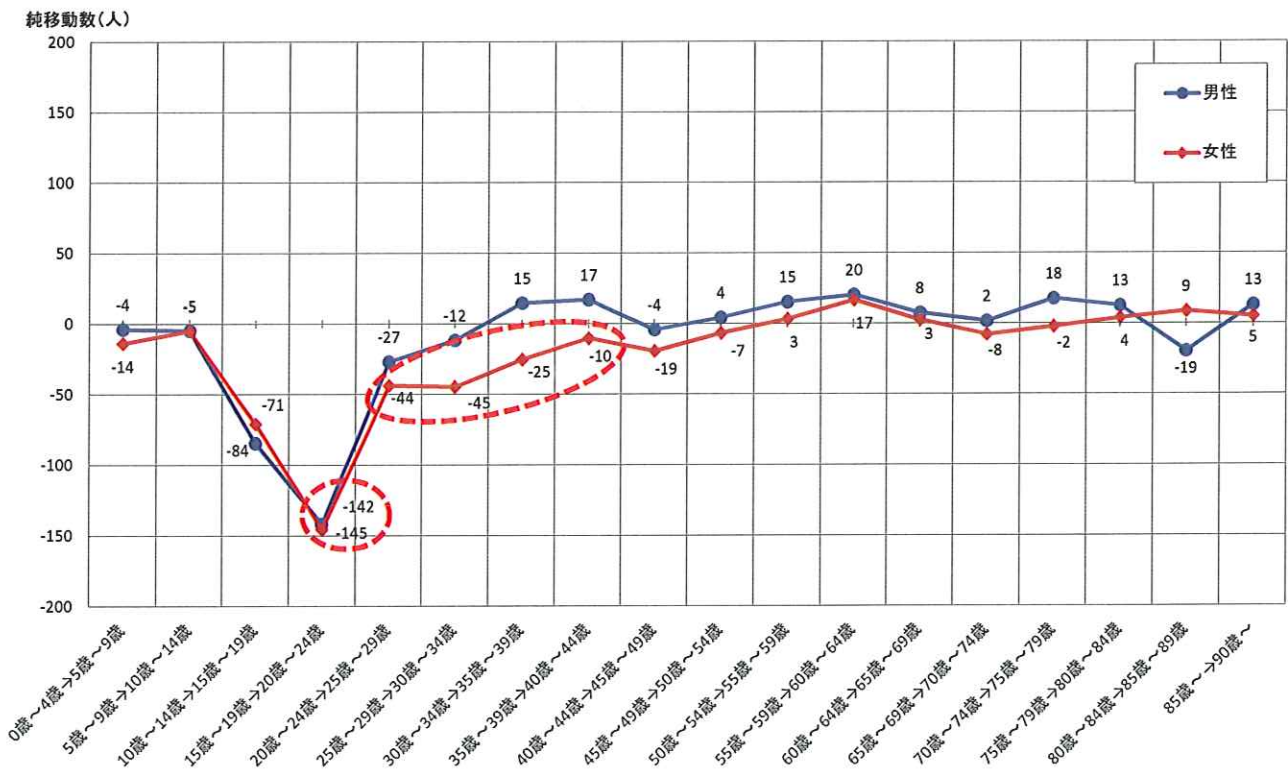


図 25 2005 年（平成 17 年）→2010 年（平成 22 年）の性別・年齢階級別人口移動数

（出典：国勢調査）

表 7 2005 年・2010 年男女別年齢階級別人口

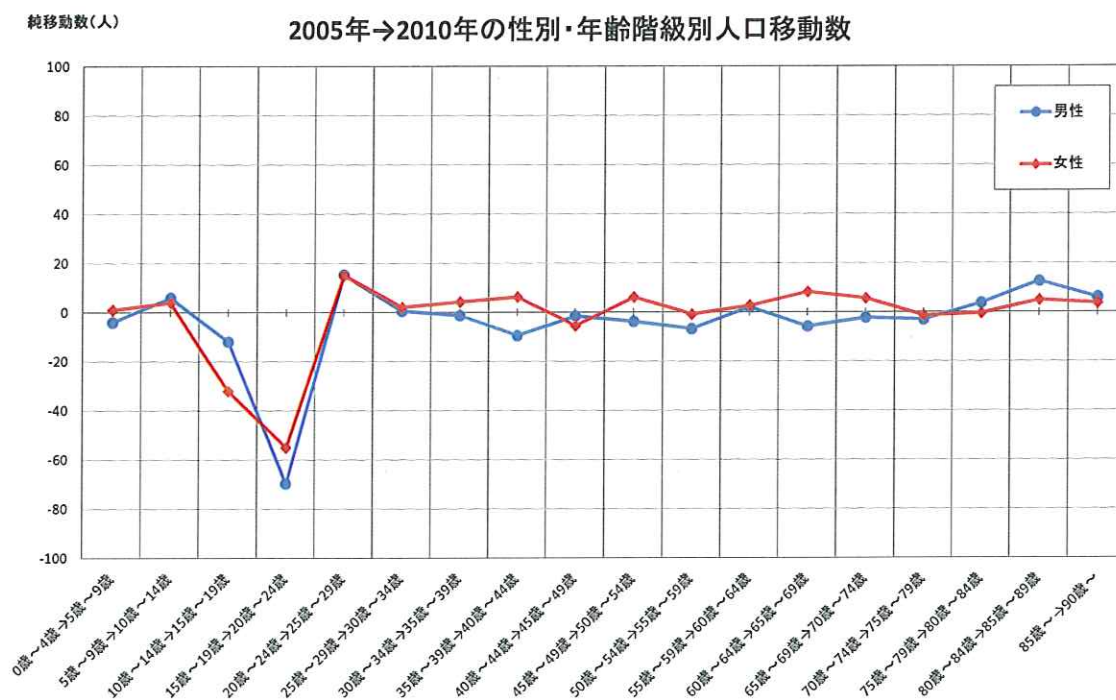
	男性		女性	
	2005年	2010年	2005年	2010年
0～4歳	286	192	260	209
5～9歳	359	282	319	246
10～14歳	401	354	410	315
15～19歳	389	316	387	340
20～24歳	306	248	240	246
25～29歳	326	278	280	214
30～34歳	335	314	314	262
35～39歳	316	349	306	308
40～44歳	335	331	378	302
45～49歳	494	327	447	368
50～54歳	635	490	547	437
55～59歳	671	635	582	545
60～64歳	469	664	506	589
65～69歳	519	448	589	497
70～74歳	578	474	710	560
75～79歳	470	513	742	666
80～84歳	356	372	612	668
85～89歳	170	203	349	494
90歳以上	84	109	238	291

表 8 移動数実数と純移動数

	実数		純移動数		実数と純移動数との差※	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0歳～4歳→5歳～9歳	-4	-14	-4	-14	0	0
5歳～9歳→10歳～14歳	-5	-4	-5	-5	0	1
10歳～14歳→15歳～19歳	-85	-70	-84	-71	-1	1
15歳～19歳→20歳～24歳	-141	-141	-142	-145	1	4
20歳～24歳→25歳～29歳	-28	-26	-27	-44	-1	18
25歳～29歳→30歳～34歳	-12	-18	-12	-45	0	27
30歳～34歳→35歳～39歳	14	-6	15	-25	-1	19
35歳～39歳→40歳～44歳	15	-4	17	-10	-2	6
40歳～44歳→45歳～49歳	-8	-10	-4	-19	-4	9
45歳～49歳→50歳～54歳	-4	-10	4	-7	-8	-3
50歳～54歳→55歳～59歳	0	-2	15	3	-15	-5
55歳～59歳→60歳～64歳	-7	7	20	17	-27	-10
60歳～64歳→65歳～69歳	-21	-9	8	3	-29	-12
65歳～69歳→70歳～74歳	-45	-29	2	-8	-47	-21
70歳～74歳→75歳～79歳	-65	-44	18	-2	-83	-42
75歳～79歳→80歳～84歳	-98	-74	13	4	-111	-78
80歳～84歳→85歳～89歳	-153	-118	-19	9	-134	-127
85歳～90歳→90歳～	-61	-58	13	5	-74	-63

※純移動数は、移動数に国が定める生残率を用いて算出されており、死亡による人口減少を移動に含めないようになっている。

* 【比較対象】飯南町



(出典：国勢調査)

(2) 性別・年齢階級別の人口移動状況の長期的動向

①男性

1985→1990 年から 1990→1995 年までは 10～14 歳→15～19 歳人口が約 200 人の転出超過となっていたが、1995→2000 年以降は減少幅が小さくなっている。高校進学率が増加したことが考えられる。2000→2005 年までは 20～24 歳→25～29 歳の移動数は転入超過となっていたが、2005→2010 年では転出超過となっている。

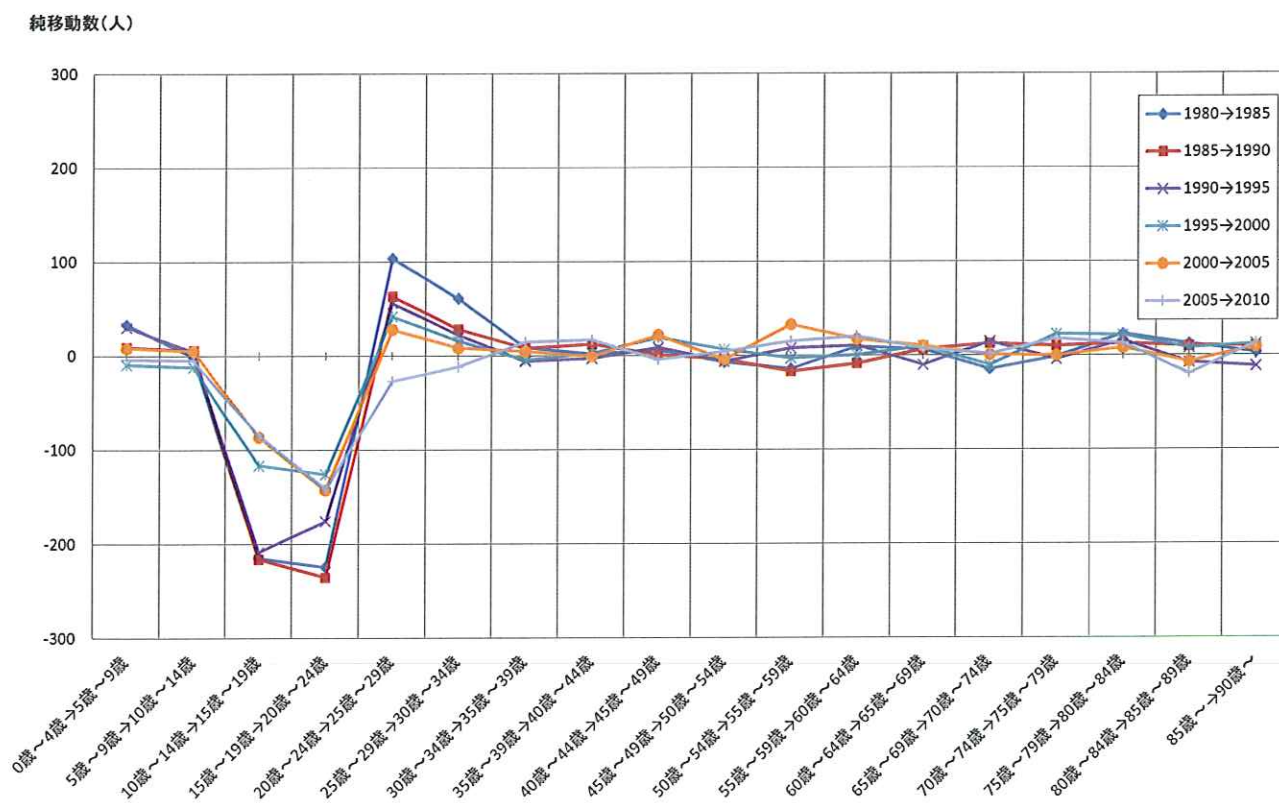


図 26 性別・年齢階級別人口移動状況の長期的動向（男性）

(出典：国勢調査)

②女性

1985→1990 年から 1985→1990 年までは 10～14 歳→15～19 歳人口が 200 人の転出超過となっていたが、減少幅は徐々に小さくなっている。高校進学率が増加したことが考えられる。2000→2005 年までは 20～24 歳→25～29 歳の移動数は転入超過となっていたが、2005→2010 年では転出超過となっている。

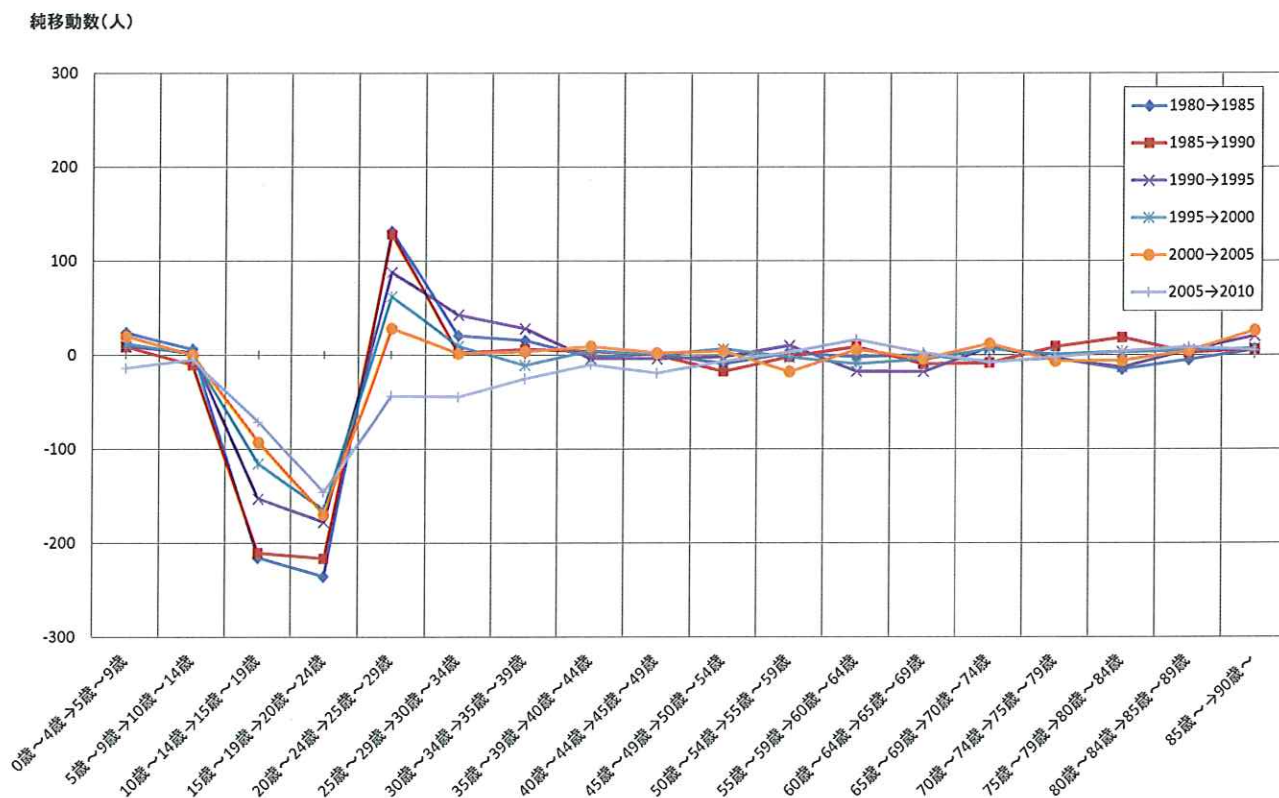


図 27 性別・年齢階級別人口移動状況の長期的動向（女性）

（出典：国勢調査）

5) 雇用や就労等に関する分析

(1) 男女別産業人口の状況

男女別に見ると、男性は、農業、製造業、建設業の順に就業者数が多く、女性は、製造業、農業、医療・福祉の順に多くなっている。

特化係数※をみると、農業、鉱業、複合サービス業で高くなっている。また女性はそれに加えて製造業、男性は建設業も高くなっている。

※特化係数・・・町のX産業の就業者比率を全国のX産業の就業者比率で割ったもの。特化係数が「1」であれば全国レベル。1以上であれば町のX産業は特化していると言える。

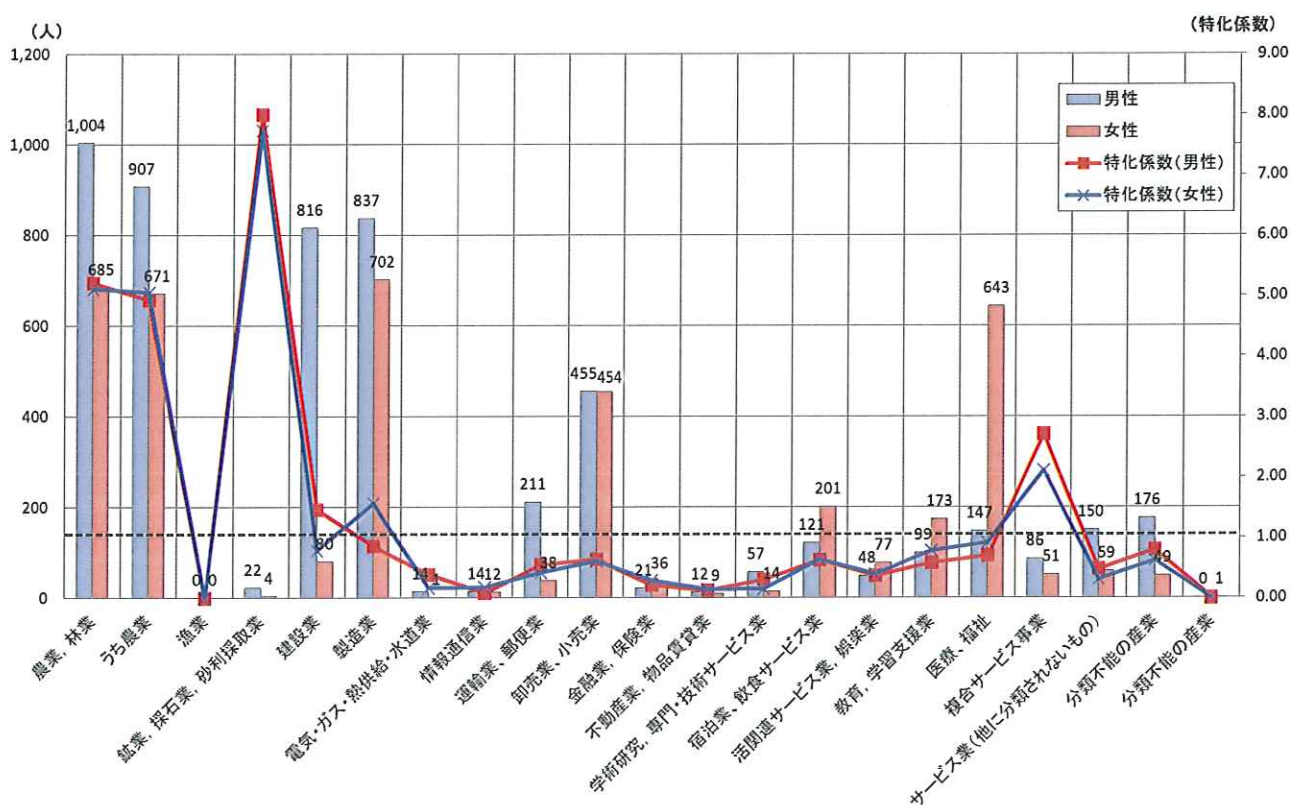


図 28 男女別産業人口の状況 (2010 年)

(出典：国勢調査)

（２）年齢階級別産業人口の状況

農業の男性については、約５割が 70 歳以上、女性については約 4 割が 70 代以上となっており、今後の高齢化の進行によって、急速に農業就業者数が減少することが予想される。

製造業や医療・福祉は男性、女性ともに約 6 割が 50 歳未満となっている。

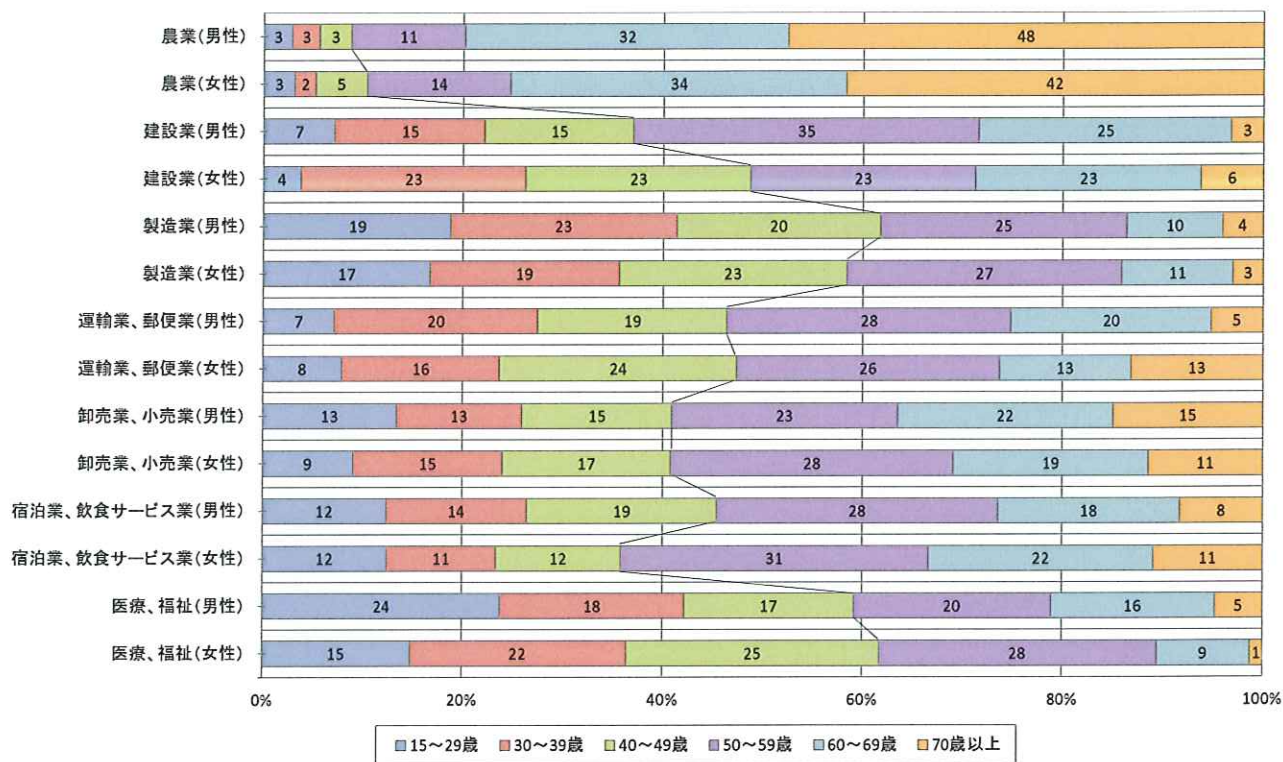


図 29 年齢階級別産業人口割合の状況（2010 年）

（出典：国勢調査）

6) 人口動向のポイント

①年少人口の減少率が大きい

1975 年～2010 年の 35 年間に於いて、総人口は約 62%減少。年齢区分別の推移では、年少人口が約 72%の減少、生産年齢人口が約 40%の減少、老年人口が約 101%の増加。年少人口の減少率が特に大きくなっているのが特徴であり、島根県平均に比して約 17%、雲南市に比して約 8%高い減少率となっている。

②出産可能年齢女性の減少が著しい

15～49 歳女性の人口は 1975 年から 2010 年にかけて 54%減少している。特に 2005 年から 2010 年にかけては 20 代～40 代の社会減が著しい。

③合計特殊出生率は島根県平均を下回る規模

1 人の女性が一生に産む子どもの数の平均である合計特殊出生率は、1983 年～2002 年には、近隣市町と比較し、高水準で推移してきたが 2003 年～2007 年の平均値で大きく低下して以降、本町の値は島根県平均を下回る規模となっている。

④男性と女性の未婚率の差が大きく、男性は晩婚化の傾向にある

男性の未婚率が女性よりも高く、特に差が大きいのは 30 代後半で 15.8 ポイント差となっている。男性の晩婚化の傾向が見られる。

⑤最も多い転出理由は「就職」

平成 26 年度に転出した人のうち、最も多い転出理由は「就職」となっている。島根リハビリテーション学院についてはリハビリテーションを習得しても町内での就職先がごく少数に限られるため、町外で就職せざる負えない状況となっている。町内居住のための雇用対策が課題である。

2. 将来人口の推計と分析

1) 国立社会保障・人口問題研究所による人口の推計と分析

(1) 国立社会保障・人口問題研究所の人口推計の概要

①推計期間

平成52（2040）年までの5年ごと

②推計方法

5歳以上の年齢階級の推計においては、コーホート要因法を使用。

コーホート要因法は、ある年の男女・年齢別人口を基準として、ここに人口動態率や移動率などの仮定値を当てはめて将来人口を計算する方法。

5歳以上の人口推計においては生存率と純移動率の仮定値が必要。0-4歳人口の推計においては生存率と純移動率に加えて、子ども女性比および0-4歳性比の仮定値によって推計。

③基準人口

平成22年国勢調査人口

④将来の生存率

「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」（出生中位・死亡中位仮定）から得られる全国の男女・年齢別生存率を利用。

⑤将来の純移動率

原則として、平成17（2005）～22（2010）年に観察された市区町村別・男女年齢別純移動率を平成27（2015）～32（2020）年にかけて定率で縮小させ、平成27（2015）～32（2020）年以降の期間については縮小させた値を一定とする仮定を置いた。

⑥将来の子ども女性比

各市区町村の子ども女性比には市区町村間で明らかな差が存在するため、平成22（2010）年の全国の子ども女性比と市区町村の子ども女性比との較差をとり、その値を平成27（2015）年以降平成52（2040）年まで一定として市区町村ごとに仮定値を設定。

⑦将来の0-4歳性比

「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」（出生中位・死亡中位仮定）により算出された全国の平成27（2015）年以降平成52（2040）年までの0-4歳性比を各年次の仮定値とし、全自治体の0-4歳推計人口に一律に適用。

(2) 全町の人口推計

①総人口・年齢区分別人口の推計

本町の人口は、2015年以降も減少を続け、2040年には8,067人（対2010年比▲44%）、2060年には4,978人

(同▲66%)になるものと推計される。

年齢区分別の人口推移を見ると、老年人口（65歳以上人口）のみが2010年から2020年にかけて増加傾向を示しているが、以降すべての年齢区分とも減少が続けている。

人口減少率は、年少人口、生産年齢人口、老年人口の順に割合が高くなっている。年少人口は2040年において対2010年比▲63%、2060年には同▲81%と大幅な減少が見込まれる。同様に生産年齢人口は、2040年において対2010年比▲44%、2060年には同▲72%と推計され、いずれも老年人口、後期高齢者人口の減少率に比して大幅に高い数値となっている。高齢化の進展、64才以下人口の減少により、高齢者一人当たりの生産年齢人口は、2010年の1.428から減少を続け、2040年には0.879、2060年には0.812まで減少する。現役世代における社会保障費負担等の増加が懸念される。

一般に人口減少は、三つの段階により進行するとされている。現状では、「老年人口が増加（総人口の減少）」の第一段階の末期に位置する。



図 30 年齢3区分別人口の推移

表 9 年齢3区分別人口の推移

項目		2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
年少人口	(人)	1,598	1,244	994	849	737	661	597	527	447	371	311
	(%)	100	78	62	53	46	41	37	33	28	23	19
生産年齢人口	(人)	7,563	6,569	5,678	4,960	4,454	3,996	3,495	3,071	2,746	2,435	2,091
	(%)	100	87	75	66	59	53	46	41	36	32	28
老年人口	(人)	5,295	5,413	5,404	5,157	4,750	4,331	3,975	3,572	3,164	2,825	2,576
	(%)	100	102	102	97	90	82	75	67	60	53	49
(75歳以上)	(人)	3,316	3,319	3,151	3,237	3,279	3,135	2,819	2,475	2,249	2,032	1,793
	(%)	100	100	95	98	99	95	85	75	68	61	54
合計	(人)	14,456	13,226	12,077	10,965	9,940	8,988	8,067	7,170	6,356	5,631	4,978
	(%)	100	91	84	76	69	62	56	50	44	39	34
高齢者一人当たり 生産年齢人口	(人)	1.428	1.214	1.051	0.962	0.938	0.923	0.879	0.86	0.868	0.862	0.812

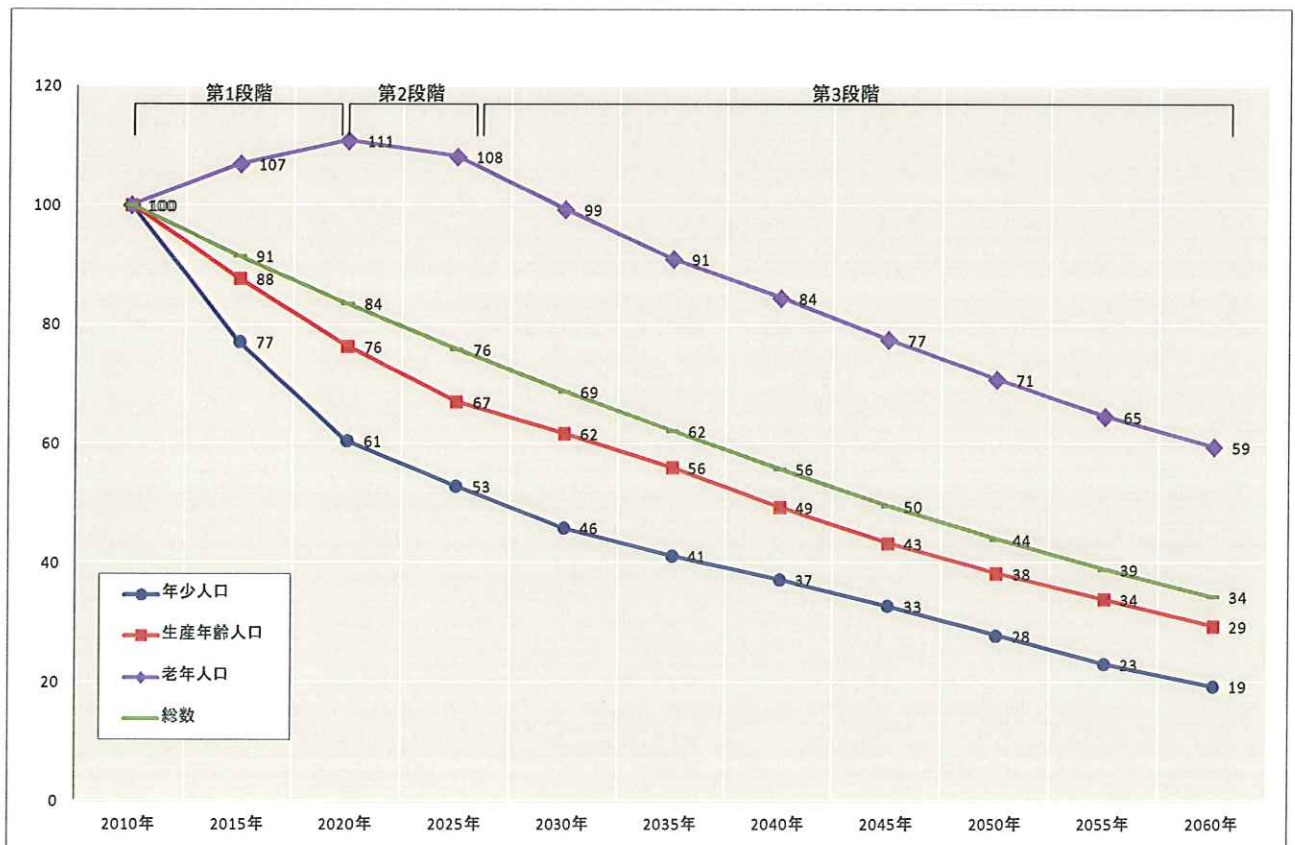
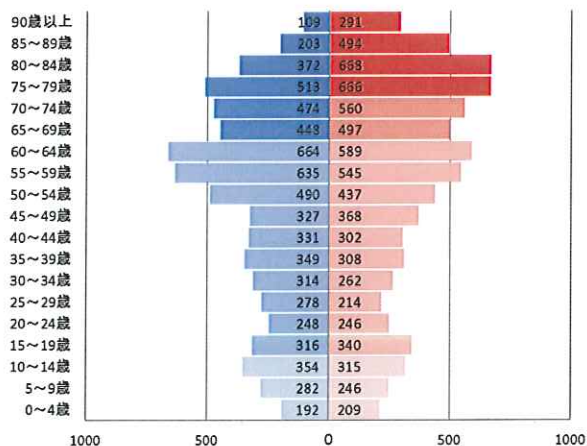


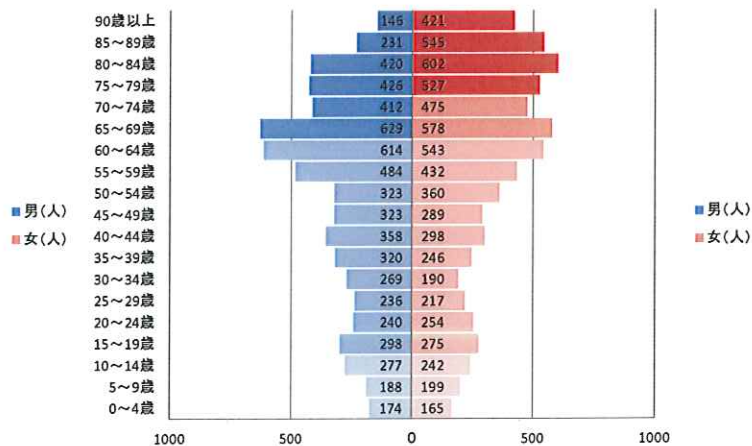
図 31 人口の減少段階

②年齢階級別人口ピラミッドの推計

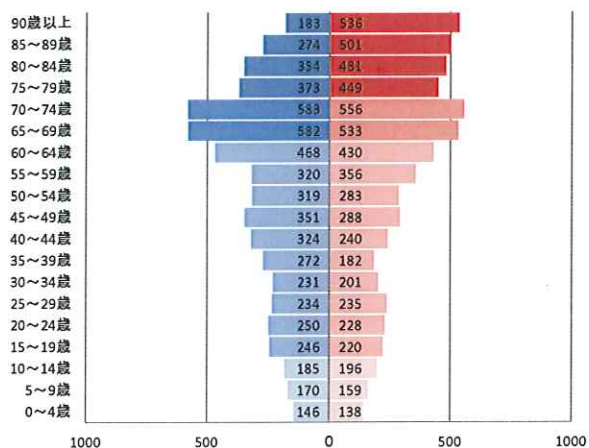
2010年(平成22年)



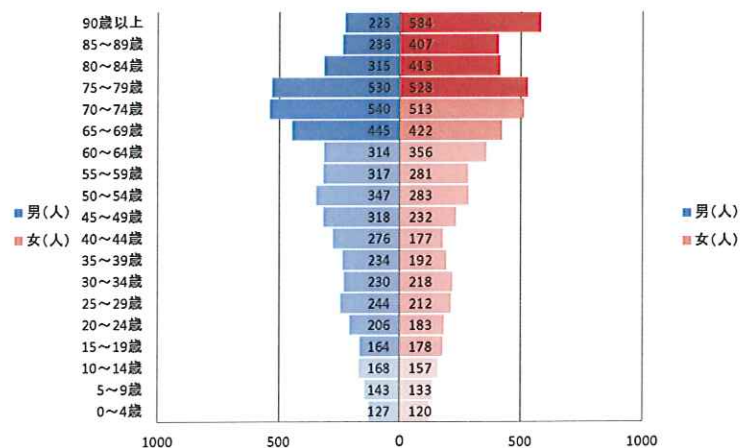
2015年(平成27年)



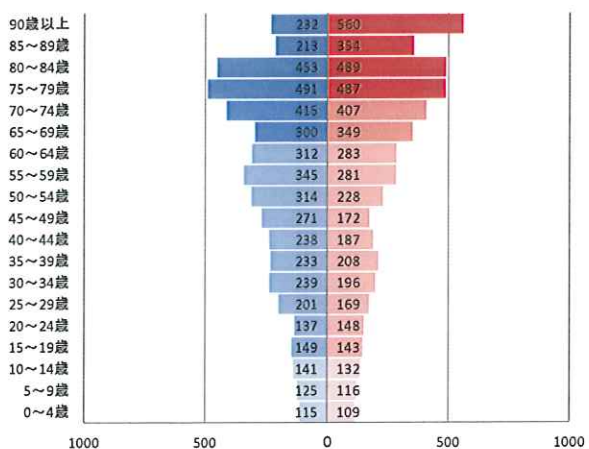
2020年



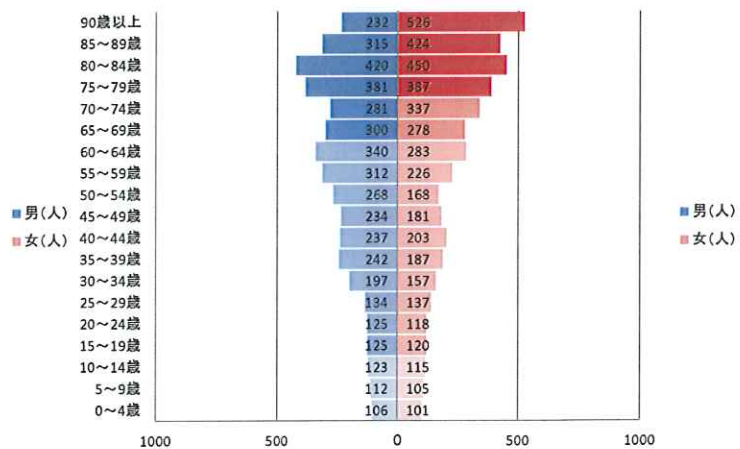
2025年

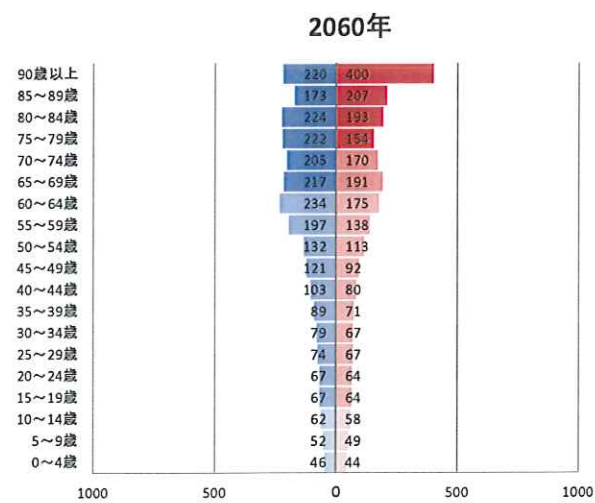
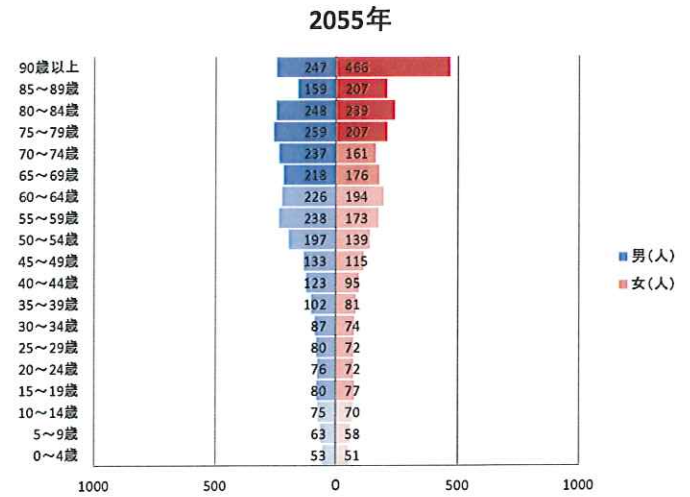
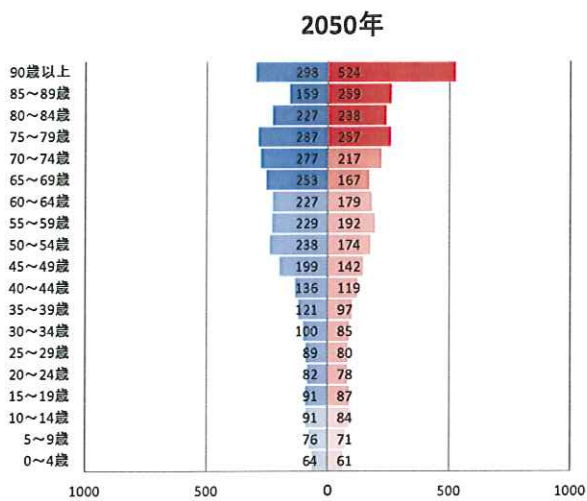
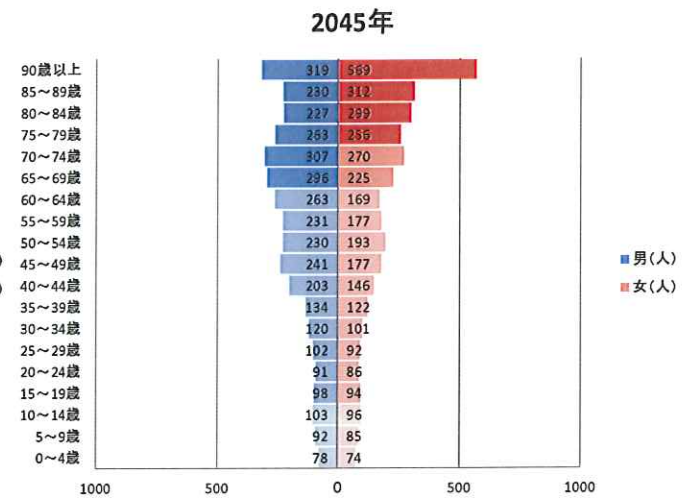
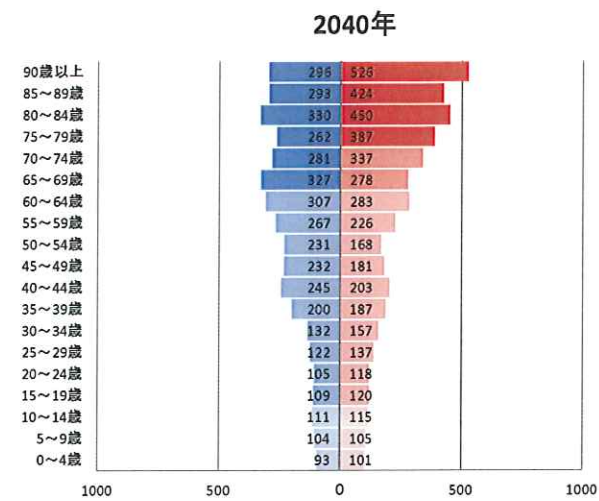


2030年



2035年





2) 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析（未）

国立社会保障・人口問題研究所の推計に基づく人口変化により、将来の奥出雲町の住民生活、行財政運営に関し様々な影響が生じることが懸念される。

2040 年における人口減少が及ぼす影響について、住民生活、町財政の両面から考察する。

表 10 影響評価分析項目（案）

区分		インパクト・見通し	実施方法
まち	経済	事業所数の減少 (特に生活系小売店)	15歳以上人口と事業所数の相関係数(実績ベース)による案分 (産業大分類別程度)
		担い手の減少	15歳以上人口と従事者数の相関係数(実績ベース)による案分 (産業大分類別程度)
	地域	空き家の増加	死亡者数と空き家率の相関係数(実績ベース)による案分
	教育	学校、クラスの減少	1校あたり児童・生徒数に基づく案分
財政		税収入の見通し	15歳以上人口と税収の相関係数による案分
		社会保障費の見通し	65歳以上人口と社会保障費の相関係数による案分
		児童福祉費の見通し	児童数と児童福祉費との相関係数による案分
		公共施設維持管理費の見通し	人口と公共施設維持管理費との相関係数による案分

3) 仮定値による将来人口の推計と分析

(1) 仮定値による人口推計の概要

国のワークシートをもとに、以下のパターン別の将来人口を推計する。

- パターン1: 全国の移動率が、今後一定程度縮小すると仮定した推計(社人研推計準拠)
- パターン2: 全国の総移動率が平成 22 年～27 年の推計値と概ね同水準でそれ以降も推移すると仮定した推計(日本創成会議推計準拠)
- パターン3: 出生、移動に関する仮定値を用いた推計
 - ①出生率(2.1)まで上昇
 - ②移動が均衡
 - ③出生率を 5 年で 0.07 ポイント改善
 - ④出生率を 5 年で 0.07 ポイント改善+UI ターン者の受入 35 組(60 人)
 - ⑤出生率を 5 年で 0.07 ポイント改善+UI ターン者の受入 35 組(60 人)+就職による転出抑制 5 人/年
 - ⑥出生率を 5 年で 0.07 ポイント改善+UI ターン者の受入 35 組(60 人)+就職による転出抑制 5 人/年+高卒時の就職流出半数抑制

■パターン3に用いる条件

【自然増の促進】

- ・母世代の流出を抑制、結婚適齢期の男性の結婚促進により出生率を回復する。
5年ごとに0.07ポイント改善（2003年～2007年→2008年～2012年における増加率）

【社会増の促進】

- ・UIターン施策の更なる実施により、年間35組、60人のUIターン者の受入

表 11 UIターン者数の推移

		H21年度		H22年度		H23年度		H24年度		H25年度		H26年度		合 計		平均	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
Uターン	単身	0	0	5	5	12	12	16	16	24	24	24	24	81	81	11.6	11.6
	世帯	0	0	1	4	13	43	11	34	12	38	8	25	45	144	6.4	20.6
	計	0	0	6	9	25	55	27	50	36	62	32	49	126	225	18.0	32.1
Iターン	単身	7	7	15	15	9	9	9	9	21	21	20	20	81	81	11.6	11.6
	世帯	3	11	6	19	3	9	10	31	9	30	4	13	35	113	5.0	16.1
	計	10	18	21	34	12	18	19	40	30	51	24	33	116	194	16.6	27.7
合計	単身	7	7	20	20	21	21	25	25	45	45	44	44	162	162	23.1	23.1
	世帯	3	11	7	23	16	52	21	65	21	68	12	38	80	257	11.4	36.7
	計	10	18	27	43	37	73	46	90	66	113	56	82	242	419	34.6	59.9

【社会減の抑制】

- ・町内での雇用創出により、就職による転出者約104人を毎年5%改善する。
転出抑制 5人/年

【社会減の抑制】

- ・横田高校卒業時に、就職により管外（県内）及び県外に転出する人口を半数に抑制する。
11人/年 → 5人/年

表 12 横田高校卒業生の就職・進学状況

	項目	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	平均
就職	町内	8	8	11	6	9	14	12	12	8	9	10
	雲南市	2	3	5	3	1	8	3	4	6	5	4
	管外(県内)	4	5	8	5	6	8	3	1	4	6	5
	県外	13	6	5	5	11	4	4	2	3	6	6
	小計	27	22	29	19	27	34	22	19	21	26	24.6
進学	町内	2	6	7	5	3	3	6	2	5	3	4
	雲南市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	管外(県内)	27	50	52	33	32	33	19	35	25	33	34
	県外	124	104	158	63	140	79	83	66	73	69	96
	小計	153	160	217	101	175	115	108	103	103	105	134
合計		180	182	246	120	202	149	130	122	124	131	158.6

【自然増を促進する】

- ・母世代の流出を抑制、結婚適齢期の男性の結婚促進により出生率を回復する。
5年ごとに4%/改善（2003年～2007年→2008年～2012年における増加率）

(2) 全町および地区別の人口推計

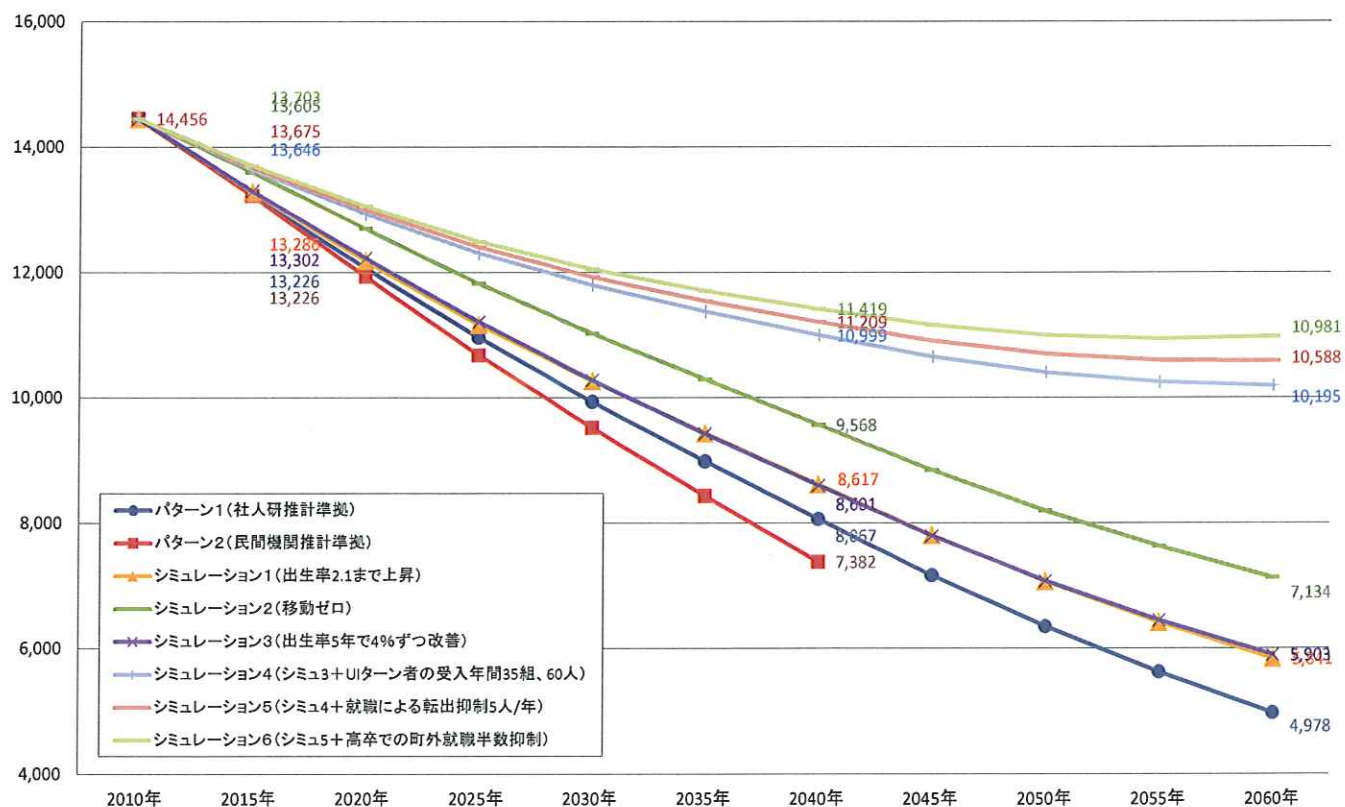


図 32 パターン別の総人口の推移

3. 人口の将来展望

- 1) 目指すべき将来の方向
- 2) 人口の将来展望